

令和 5 年度

一宮市公営企業会計決算審査意見書

一宮市公営企業会計資金不足比率審査意見書

(病 院 事 業)

一 宮 市 監 査 委 員

— 凡 例 —

- 1 消費税及び地方消費税は、本文中の予算執行状況及び審査資料中の予算決算対照表、決算両年度比較表においては税込みの額、その他においては税抜きの額で表示した。
- 2 比率は、小数点第2位で四捨五入してあるので、端数処理の関係上、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 3 文中及び各表中の符号の用法は次のとおりである。
 - 「0.0」…… 算出により零となるもの、又は該当数値はあるが単位未満のもの
 - 「－」…… 算出不能なもの、又は該当数値がないもの
 - 「△」…… 負数
 - 「皆増」…… 前年度に数値がなく、全額増加したもの
 - 「皆減」…… 当年度に数値がなく、全額減少したもの

目 次

ページ

令和５年度一宮市病院事業会計決算審査意見

第１	審査の対象	-----	1
第２	審査の方法等	-----	1
第３	審査の結果	-----	3
概	要	-----	3
1	業務状況	-----	3
2	予算執行状況	-----	9
3	経営状況	-----	13
4	財政状態	-----	24
む	す	び	----- 35

令和５年度一宮市病院事業会計決算に基づく資金不足比率審査意見

第１	審査の対象	-----	37
第２	審査の方法等	-----	37
第３	審査の結果	-----	37

病院事業会計決算審査資料

予算決算対照表	-----	40
決算両年度比較表	-----	42
比較損益計算書	-----	44
収益的支出科目別及び経費別両年度比較表	-----	50
比較貸借対照表	-----	56
比較財務分析表	-----	62

一宮市病院事業会計決算審査意見

2024（令和6）年8月23日

一宮市長 中野正康様

一宮市監査委員 長谷川 伸 二

一宮市監査委員 丹 羽 達

一宮市監査委員 八 木 丈 之

一宮市監査委員 松 井 哲 朗

令和5年度一宮市公営企業会計（病院事業会計）
決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された令和5年度一宮市病院事業会計
決算及び決算附属書類について審査した結果、次のとおりその意見を提出します。

令和５年度一宮市病院事業会計決算審査意見

地方公営企業法第30条第2項による決算審査を一宮市監査委員監査基準に準拠して実施した。その概要及び結果は次のとおりである。

第１ 審査の対象

令和５年度一宮市病院事業会計決算

第２ 審査の方法等

１ 主な着眼点

一会計年度における事務事業の決算に対し、計数の正確性を検証するとともに、予算の執行又は事業の経営が、適正かつ効率的に行われているかどうかの主眼を置いて審査した。

（１）形式審査

- ア 決算書類は関係法令に定める様式に準じて作成されているか。
- イ 決算計数は総勘定元帳、関係補助簿等の計数と一致しているか。
- ウ 決算書類相互の関連計数は一致しているか。

（２）実質審査

ア 共通的事項

- ・ 会計処理が適正に行われているか。
- ・ 正規の簿記の原則に従って正確な会計帳簿が作成されているか。
- ・ 会計処理の基準及び手続について継続して用い、みだりに変更していないか。
- ・ 財政状態及び経営成績に関する会計真実を決算書その他の会計に関する書類に適正かつ明瞭に表示しているか。
- ・ 財政に不利な影響を及ぼすおそれがある事態に備えて健全な会計処理が行われているか。
- ・ 一般会計等との負担区分は適切か。

イ 業務状況

- ・ 業務実績の前年度との比較分析

ウ 予算執行状況

- ・ 収益的収支及び資本的収支の予算執行状況が適正かつ効率的か。
- ・ 収入は適正に確保されているか。
- ・ 予算の繰越しは適正に行われているか。
- ・ 資本的収入が資本的支出に対して不足する額の補てん財源は妥当か。また、その表示は明瞭か。

- ・消費税及び地方消費税分は備考欄に内書きされているか。

エ 経営状況

- ・損益計算書は経営成績を適正に表示しているか。
- ・収益及び費用の前年度比較による増減事由の検証
- ・単位当たりの収支、各種の比率による事業の経済性の分析評価

オ 財政状態

- ・貸借対照表は年度末の財政状態を適正に表示しているか。
- ・貸借対照表の各勘定科目の前年度比較による増減事由の検証
- ・各種の比率による財政状態の分析
- ・キャッシュ・フロー計算書による活動区分ごとの資金の増減要因の分析

2 主な実施内容

審査に付された決算及び決算附属書類を基に、次の手続を実施した。

(1) 書類の審査

審査に付された決算及び決算附属書類と、総勘定元帳、関係補助簿、関連保管文書等との照合等を行った。

(2) 経営分析

年度間比較、財政指標の算出により当年度の経営状況を確認した。

(3) 説明の聴取

事業管理者、部長、次長、担当課長等関係職員から説明を聴取した。

(4) 実地調査

必要な事項については実査又は立会を行った。

3 実施場所及び主な日程

	実施場所	日程
監査事務局による 実地調査 (貯蔵品の実地棚卸の 立会)	市民病院（病棟、薬剤 局、管理課） 木曾川市民病院（病 棟、薬剤局、業務課）	2024年3月29日
監査事務局による 書類調査	監査事務局	同年6月26日～ 同年7月10日
監査委員による本審査	市民病院及び木曾川市 民病院会議室	同年7月22日、同月24日

第3 審査の結果

以上のとおり審査した限りにおいて、決算その他関係書類が法令に適合し、かつその計数は正確であり、当年度の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

審査結果の概要及び意見は次のとおりである。

概 要

1 業務状況

当年度の一宮市病院事業会計の業務量及び前年度との増減状況は次のとおりである。

区 分	診 療 科 数	患 者 別		病 床 数	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前年度 対 比
					年 間 延 数	一 日 平 均	年 間 延 数	一 日 平 均	
市民病院	24	入 院	一 般	570	163,812	448	158,439	434	103.4
			結核・ 感染症	24	3,721	10	3,377	9	110.2
			計	594	167,533	458	161,816	443	103.5
		外 来	時間内		276,569	1,138	284,250	1,170	97.3
			時間外		20,723	57	18,625	51	111.3
			計		297,292		302,875		98.2
木 曽 川 市民病院	5	入 院	一 般	84	24,851	68	20,366	56	122.0
			療 養	46	15,941	44	16,033	44	99.4
			計	130	40,792	111	36,399	100	112.1
		外 来	時間内		33,780	139	34,984	144	96.6
			時間外		86	0	59	0	145.8
			計		33,866		35,043		96.6
計		入 院	724	208,325	569	198,215	543	105.1	
		外 来		331,158		337,918		98.0	
入 院 ・ 外 来 患 者 数 合 計					539,483		536,133		100.6

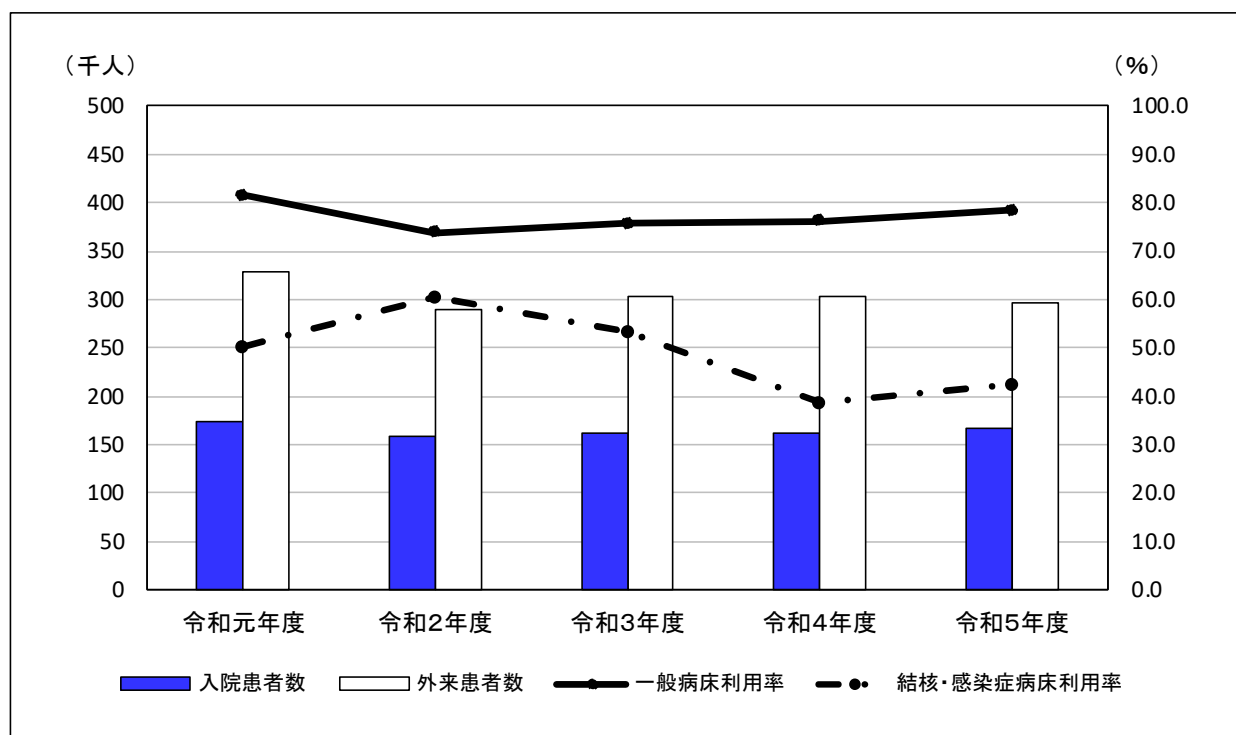
- (注) 1 病床数は稼働病床数である。
2 木曽川市民病院の稼働病床数は、4月1日から一般病床が82床より84床、療養病床が48床より46床となった。
3 入院及び外来時間外取扱診療日数は、366日である。(前年度365日)
4 外来時間内診療日数は、243日である。(前年度243日)
5 患者数の一日平均については、四捨五入により計と一致しない場合がある。

表でみられるように、当年度の総利用患者数は、延 53 万 9,483 人で前年度に比べ 3,350 人 (0.6%) 増加している。そのうち入院患者数は、延 20 万 8,325 人で前年度に比べ 1 万 110 人 (5.1%) 増加し、外来患者数は、延 33 万 1,158 人で前年度に比べ 6,760 人 (2.0%) 減少している。

最近 5 か年の各病院の患者数及び稼働病床利用率の推移は、次のとおりである。

○市民病院

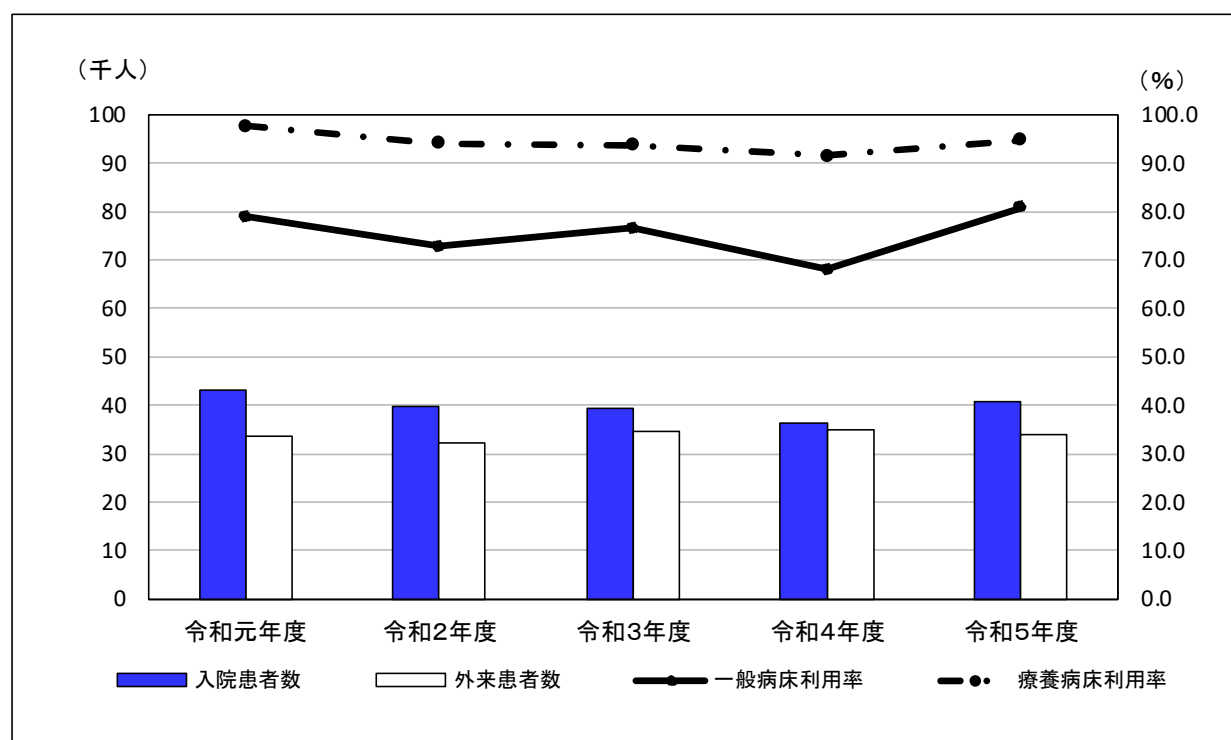
区 分		令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
患 者 数	入 院	174,559	159,029	162,164	161,816	167,533
	外 来	329,437	289,204	303,561	302,875	297,292
稼 働 病 床 利 用 率	一 般	81.6	73.9	75.7	76.2	78.5
	結核・ 感染症	50.2	60.4	53.2	38.6	42.4



市民病院の稼働病床利用率 ($\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数 (稼働病床数)}} \times 100$) は、一般病床では、78.5% で前年度に比べ 2.3 ポイント上昇しており、結核・感染症病床では、42.4% で前年度に比べ 3.8 ポイント上昇している。

○木曽川市民病院

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
患 者 数	入 院	人 43,159	人 39,715	人 39,318	人 36,399	人 40,792
	外 来	33,468	32,392	34,509	35,043	33,866
稼働病床 利用 率	一 般	% 79.0	% 72.8	% 76.5	% 68.0	% 80.8
	療 養	97.6	94.1	93.8	91.5	94.7



木曽川市民病院の稼働病床利用率は、一般病床では、80.8%で前年度に比べ12.8ポイント上昇しており、療養病床では、94.7%で前年度に比べ3.2ポイント上昇している。

また、診療科別患者数を前年度と比較すれば、次のとおりである。

診 療 科		令 和 5 年 度			令 和 4 年 度			増 ・ △ 減		
		入 院	外 来	計	入 院	外 来	計	入 院	外 来	計
市	腎 臓 内 科	人 5,393	人 9,707	人 15,100	人 7,315	人 10,160	人 17,475	人 △1,922	人 △453	人 △2,375
	血 液 内 科	10,257	10,387	20,644	9,453	11,282	20,735	804	△895	△91
	糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科	2,327	11,751	14,078	2,771	12,617	15,388	△444	△866	△1,310
	一 般 内 科	—	1,359	1,359	—	1,340	1,340	—	19	19
	総 合 内 科	1,248	1,332	2,580	796	886	1,682	452	446	898
	循 環 器 内 科	25,547	20,695	46,242	26,233	20,852	47,085	△686	△157	△843
	呼 吸 器 内 科	23,027	19,154	42,181	21,904	17,981	39,885	1,123	1,173	2,296
	消 化 器 内 科	15,270	14,783	30,053	12,418	14,331	26,749	2,852	452	3,304
	脳 神 経 内 科	7,807	10,351	18,158	10,047	11,305	21,352	△2,240	△954	△3,194
	小 児 科	12,532	24,116	36,648	11,251	24,800	36,051	1,281	△684	597
民	外 科	14,142	15,918	30,060	12,783	15,545	28,328	1,359	373	1,732
	呼 吸 器 外 科	134	425	559	107	486	593	27	△61	△34
	心臓血管外科	3,238	2,024	5,262	3,230	2,137	5,367	8	△113	△105
	血 管 外 科	3,287	2,665	5,952	2,969	2,713	5,682	318	△48	270
	整 形 外 科	12,621	19,042	31,663	12,576	21,642	34,218	45	△2,600	△2,555
	脳 神 経 外 科	6,903	5,866	12,769	6,995	6,454	13,449	△92	△588	△680
	皮 膚 科	3,063	29,735	32,798	2,568	31,369	33,937	495	△1,634	△1,139
	泌 尿 器 科	5,374	11,996	17,370	3,842	11,361	15,203	1,532	635	2,167
	産 婦 人 科	8,079	15,243	23,322	7,824	16,275	24,099	255	△1,032	△777
	眼 科	484	12,611	13,095	514	12,512	13,026	△30	99	69
病 院	耳鼻いんこう科	3,894	14,473	18,367	3,173	14,313	17,486	721	160	881
	放射線治療科	31	8,171	8,202	15	8,650	8,665	16	△479	△463
	救 急 科	8	2,222	2,230	8	2,183	2,191	0	39	39
	歯科口腔外科	1,773	12,457	14,230	1,790	13,056	14,846	△17	△599	△616
	緩 和 ケ ア	1,094	86	1,180	1,234	—	1,234	△140	86	△54
	時間外取扱患者	—	20,723	20,723	—	18,625	18,625	—	2,098	2,098
	計	167,533	297,292	464,825	161,816	302,875	464,691	5,717	△5,583	134

診 療 科		令 和 5 年 度			令 和 4 年 度			増 ・ △ 減		
		入 院	外 来	計	入 院	外 来	計	入 院	外 来	計
木 曽 川 市 民 病 院	内 科	15,337	18,872	34,209	14,070	20,023	34,093	1,267	△1,151	116
	外 科	0	364	364	0	413	413	0	△49	△49
	整 形 外 科	9,173	9,984	19,157	6,092	9,909	16,001	3,081	75	3,156
	眼 科	0	3,478	3,478	0	3,545	3,545	0	△67	△67
	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	341	1,082	1,423	204	1,094	1,298	137	△12	125
	回復期リハビリ テ ー シ ョ ン	15,941	—	15,941	16,033	—	16,033	△92	—	△92
	時間外取扱患者	—	86	86	—	59	59	—	27	27
計		40,792	33,866	74,658	36,399	35,043	71,442	4,393	△1,177	3,216

患者数については、2病院とも入院患者数は前年度に比べ増加したものの、外来患者数は減少し、新型コロナウイルス感染症流行前の実績には届かなかった。

市民病院の入院患者数は、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類相当から5類感染症へ移行したことに伴い、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れるために確保していた新型コロナウイルス感染症専用病床を一般病床に戻したことなどにより増加した。診療科別に見てみると、消化器内科、泌尿器科、外科等で増加した。外来患者数は、整形外科、皮膚科、産婦人科で紹介患者が減少したことなどにより減少した。

木曽川市民病院の入院患者数は、新型コロナウイルス感染症患者に対応するために確保していた新型コロナウイルス感染症専用病床を一般病床へ戻したことなどにより整形外科等で増加した。外来患者数は、ほとんどの診療科で減少した。

年度末の職員数を前年度と比較してみると、次のとおりである。

区 分		令 和 5 年 度	令 和 4 年 度	増 ・ △ 減
病 院 事 業 管 理 者		人 1	人 1	人 0
医 師		160	158	2
内 訳	市 民 病 院	151	150	1
	木 曽 川 市 民 病 院	9	8	1
看 護 師		697	679	18
内 訳	市 民 病 院	629	606	23
	木 曽 川 市 民 病 院	68	73	△ 5
医 療 技 術 員		240	242	△ 2
内 訳	市 民 病 院	188	190	△ 2
	木 曽 川 市 民 病 院	52	52	0
事 務 員		61	60	1
内 訳	市 民 病 院	50	49	1
	木 曽 川 市 民 病 院	11	11	0
技 術 員（市民病院）		2	2	0
労 務 員（市民病院）		3	4	△ 1
再 任 用 ・ 会 計 年 度 任 用 職 員		442	407	35
内 訳	市 民 病 院	373	342	31
	木 曽 川 市 民 病 院	69	65	4
計		1,606	1,553	53
内 訳	市 民 病 院	1,397	1,344	53
	木 曽 川 市 民 病 院	209	209	0

（注） 1 職員数は各年度の3月31日付け退職者数を含めている。

2 病院事業管理者は、計の内訳のうち市民病院に含めている。

2 予算執行状況

(1) 収益的収入及び支出

<収 入>

収益的収入は、予算現額263億9,393万円に対し、決算額264億3,425万732円、執行率100.2%となっている。

その内訳は次のとおりである。

区 分		予 算 現 額 (A)	決 算 額 (B)	予算現額に 比べ決算額 の増・△減	執行率 $\frac{(B)}{(A)}$	決算額のうち 仮受消費税及 び地方消費税
医 業 収 益		円 24,261,636,000	円 24,184,013,083	円 △77,622,917	% 99.7	円 34,972,800
内 訳	市 民 病 院	22,219,853,000	22,182,621,048	△37,231,952	99.8	31,205,801
	木 曽 川 市 民 病 院	2,041,783,000	2,001,392,035	△40,390,965	98.0	3,766,999
医 業 外 収 益		2,128,983,000	2,245,384,575	116,401,575	105.5	8,092,517
内 訳	市 民 病 院	1,808,008,000	1,897,667,936	89,659,936	105.0	7,580,290
	木 曽 川 市 民 病 院	320,975,000	347,716,639	26,741,639	108.3	512,227
特 別 利 益		3,311,000	4,853,074	1,542,074	146.6	0
内 訳	市 民 病 院	920,000	2,461,146	1,541,146	267.5	0
	木 曽 川 市 民 病 院	2,391,000	2,391,928	928	100.0	0
合 計		26,393,930,000	26,434,250,732	40,320,732	100.2	43,065,317
内 訳	市 民 病 院	24,028,781,000	24,082,750,130	53,969,130	100.2	38,786,091
	木 曽 川 市 民 病 院	2,365,149,000	2,351,500,602	△13,648,398	99.4	4,279,226

決算額の主なものは、医業収益では、入院収益159億1,005万7,463円、外来収益79億295万4,233円、医業外収益では、負担金・交付金13億4,552万4,719円である。

<支 出>

収益的支出は、予算現額273億3,511万3,000円に対し、決算額268億1,607万4,392円、執行率98.1%となっている。

その内訳は次のとおりである。

区 分		予 算 現 額 (A)	決 算 額 (B)	不 用 額	執行率 (B) (A)	決算額のうち 仮払消費税及 び地方消費税
医 業 費 用		円 26,157,677,000	円 25,672,228,943	円 485,448,057	% 98.1	円 348,651,476
内 訳	市 民 病 院	23,638,183,000	23,285,026,074	353,156,926	98.5	295,349,340
	木 曽 川 市 民 病 院	2,519,494,000	2,387,202,869	132,291,131	94.7	53,302,136
医 業 外 費 用		1,172,741,178	1,139,436,769	33,304,409	97.2	1,226,985
内 訳	市 民 病 院	1,134,163,178	1,108,622,023	25,541,155	97.7	1,222,191
	木 曽 川 市 民 病 院	38,578,000	30,814,746	7,763,254	79.9	4,794
特 別 損 失		4,494,822	4,408,680	86,142	98.1	61,458
内 訳	市 民 病 院	1,579,822	1,579,822	0	100.0	58,405
	木 曽 川 市 民 病 院	2,915,000	2,828,858	86,142	97.0	3,053
予 備 費		200,000	0	200,000	0.0	0
内 訳	市 民 病 院	100,000	0	100,000	0.0	0
	木 曽 川 市 民 病 院	100,000	0	100,000	0.0	0
合 計		27,335,113,000	26,816,074,392	519,038,608	98.1	349,939,919
内 訳	市 民 病 院	24,774,026,000	24,395,227,919	378,798,081	98.5	296,629,936
	木 曽 川 市 民 病 院	2,561,087,000	2,420,846,473	140,240,527	94.5	53,309,983

決算額の主なものは、医業費用では、給与費 121 億 7,117 万 9,465 円、材料費 76 億 2,128 万 2,143 円、経費 38 億 5,851 万 291 円、医業外費用では、雑損失 7 億 5,916 万 1,171 円、支払利息 1 億 9,059 万 7,329 円、長期前払消費税償却 1 億 5,990 万 9,229 円である。

(2) 資本的収入及び支出

<収 入>

資本的収入は、予算現額 3 億 4,555 万 6,000 円に対し、決算額 3 億 4,504 万 5,686 円、執行率 99.9%となっている。

その内訳は次のとおりである。

区 分		予 算 現 額 (A)	決 算 額 (B)	予算現額に 比べ決算額 の増・△減	執行率 (B) (A)	決算額のうち 仮受消費税及 び地方消費税
		円	円	円	%	円
負 担 金		344,935,000	344,524,686	△410,314	99.9	0
内 訳	市 民 病 院	306,889,000	306,501,430	△387,570	99.9	0
	木 曽 川 市 民 病 院	38,046,000	38,023,256	△22,744	99.9	0
寄 附 金 (市 民 病 院)		100,000	0	△100,000	0.0	0
補 助 金 (市 民 病 院)		521,000	521,000	0	100.0	0
合 計		345,556,000	345,045,686	△510,314	99.9	0
内 訳	市 民 病 院	307,510,000	307,022,430	△487,570	99.8	0
	木 曽 川 市 民 病 院	38,046,000	38,023,256	△22,744	99.9	0

負担金は、全額、一般会計から繰り入れたものであり、その内訳は、企業債元金償還金負担金（市民病院 2 億 8,554 万 7,525 円、木曽川市民病院 3,788 万 256 円）、地方創生臨時交付金負担金（市民病院 2,095 万 3,905 円、木曽川市民病院 14 万 3,000 円）である。補助金は、保健衛生施設等設備整備費国庫補助金（市民病院 52 万 1,000 円）である。

<支 出>

資本的支出は、予算現額 16 億 1,854 万 8,000 円に対し、決算額 16 億 865 万 3,877 円、執行率 99.4%となっている。

その内訳は次のとおりである。

区 分		予 算 現 額 (A)	決 算 額 (B)	翌 年 度 繰 越 額	不 用 額	執行率 (B) (A)	決算額のうち 仮払消費税及 び地方消費税
		円	円	円	円	%	円
建 設 改 良 費		1,031,186,000	1,021,292,635	0	9,893,365	99.0	54,782,656
内 訳	市 民 病 院	988,670,000	979,481,862	0	9,188,138	99.1	52,446,413
	木 曽 川 市 民 病 院	42,516,000	41,810,773	0	705,227	98.3	2,336,243
企 業 債 償 還 金		587,362,000	587,361,242	0	758	100.0	0
内 訳	市 民 病 院	528,274,000	528,273,243	0	757	100.0	0
	木 曽 川 市 民 病 院	59,088,000	59,087,999	0	1	100.0	0
合 計		1,618,548,000	1,608,653,877	0	9,894,123	99.4	54,782,656
内 訳	市 民 病 院	1,516,944,000	1,507,755,105	0	9,188,895	99.4	52,446,413
	木 曽 川 市 民 病 院	101,604,000	100,898,772	0	705,228	99.3	2,336,243

建設改良費 10 億 2,129 万 2,635 円の内訳は、改良費 4,639 万 4,150 円（全額市民病院）、資産購入費 5 億 5,623 万 5,498 円（市民病院 5 億 3,053 万 6,825 円、木曽川市民病院 2,569 万 8,673 円）、リース資産購入費 4 億 1,866 万 2,987 円（市民病院 4 億 255 万 887 円、木曽川市民病院 1,611 万 2,100 円）である。

決算額の主なものは、次のとおりである。

ア 市民病院

改良費の主なものは、南館 B 棟配膳室ほか空調整備改修工事 3,113 万円である。

資産購入費は、内視鏡マネジメントシステム、乳腺バイオプシー装置、三次元マッピング装置などの購入費用である。

リース資産購入費は、病院情報システム、放射線治療システム、電子カルテシステムサーバーなどのリース資産に係る当年度分のリース料の支払額（利息等相当額を除く）である。

イ 木曽川市民病院

資産購入費は、透析用患者監視装置、ポータブル心電計、体重計ユニットなどの購入費用である。

リース資産購入費は、病院情報システム、F P D（一般 X 線撮影装置）のリース資産に係る当年度分のリース料の支払額（利息等相当額を除く）である。

なお、資本的支出総額 16 億 865 万 3,877 円に対し、資本的収入総額 3 億 4,504 万 5,686 円で、12 億 6,360 万 8,191 円収支不足となっているが、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 121 万 8,781 円、過年度分損益勘定留保資金 12 億 6,238 万 9,410 円により補てんされている。

3 経営状況

当年度の経営成績は、医業収益 241 億 4,880 万 5,673 円、医業外収益 22 億 3,735 万 2,654 円に対し、医業費用 253 億 2,334 万 2,857 円、医業外費用 14 億 5,895 万 5,783 円となった。ただし、決算額は、市民病院と木曽川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去され、純計となっている。

この結果、医業損益では、11 億 7,453 万 7,184 円の医業損失（市民病院 8 億 3,826 万 1,487 円、木曽川市民病院 3 億 3,627 万 5,697 円）となり、前年度 16 億 3,587 万 8,078 円の医業損失から 4 億 6,134 万 894 円損失が減少した。

また、経常損益では、3 億 9,614 万 313 円の経常損失（市民病院 3 億 2,686 万 3,837 円、木曽川市民病院 6,927 万 6,476 円）となり、前年度 5 億 8,268 万 4,673 円の経常利益から 9 億 7,882 万 4,986 円利益が減少した。

最終損益では、経常損益に特別利益 485 万 3,074 円、特別損失 434 万 7,222 円を加減し、3 億 9,563 万 4,461 円の純損失（市民病院 3 億 2,592 万 4,108 円、木曽川市民病院 6,971 万 353 円）となり、前年度 5 億 8,481 万 4,182 円の純利益から 9 億 8,044 万 8,643 円利益が減少した。

最近 5 か年の経営成績は、次のとおりである。

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
病院事業収益		千円 23,425,231	千円 24,942,324	千円 27,121,153	千円 27,011,421	千円 26,391,011
内 訳	市民病院	21,092,982	22,673,946	24,629,280	24,387,550	24,044,024
	木曽川 市民病院	2,337,354	2,268,616	2,492,156	2,623,965	2,347,222
病院事業費用		25,374,230	25,207,347	25,823,207	26,426,607	26,786,646
内 訳	市民病院	22,922,195	22,781,485	23,435,618	23,986,198	24,369,948
	木曽川 市民病院	2,457,140	2,426,099	2,387,872	2,440,503	2,416,932
純利益・△純損失		△1,948,998	△265,023	1,297,946	584,814	△395,634
内 訳	市民病院	△1,829,213	△107,539	1,193,662	401,352	△325,924
	木曽川 市民病院	△119,785	△157,483	104,284	183,463	△69,710

（注） 1 病院事業収益及び病院事業費用の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので、内訳の 2 病院の決算額の計と一致しない。

2 表示単位未満を四捨五入して端数処理を行っているので、計数が一致しない場合がある。

(1) 収 益

ア 市民病院

医業収益は、入院収益 144 億 7,422 万 610 円、外来収益 73 億 7,220 万 373 円を始め総額 221 億 5,141 万 5,247 円で、前年度に比べ 9 億 5,349 万 4,580 円（4.5%）増加している。

増加した主なものは、入院収益 8 億 340 万 7,241 円（5.9%）、外来収益 1 億 4,046 万 6,601 円（1.9%）である。入院収益が増加した要因は、新型コロナウイルス感染症専用病床を一般病床に戻したことにより入院患者数が大幅に増加したことや、診療単価が上昇したことである。外来収益が増加した要因は、化学療法等における高額な薬品の使用量の増加等により患者 1 人当たりの外来単価が上昇したことや、診療単価の高い時間外の取扱患者数が増加したことである。

医業外収益は、負担金・交付金 11 億 2,576 万 1,315 円、長期前受金戻入 3 億 5,117 万 3,154 円を始め総額 18 億 9,014 万 7,961 円で、前年度に比べ 12 億 9,147 万 4,627 円（40.6%）減少している。

減少した主なものは、補助金 12 億 7,388 万 2,407 円（80.9%）である。補助金が減少した要因は、新型コロナウイルス感染症関連の国・県補助金が減少したことである。

特別利益は、246 万 1,146 円で前年度に比べ 554 万 5,411 円（69.3%）減少している。なお、その他特別利益には、長期前受金戻入 65 万 6,854 円（皆増）が計上されている。

イ 木曽川市民病院

医業収益は、入院収益 14 億 3,199 万 7,921 円、外来収益 5 億 2,862 万 8,273 円を始め総額 19 億 9,762 万 5,036 円で、前年度に比べ 389 万 6,872 円（0.2%）増加している。

増加したものは、入院収益 3,386 万 7,501 円（2.4%）である。入院収益が増加した要因は、内科で新型コロナウイルス感染症患者に係る診療報酬特例加算が減少したことなどにより患者 1 人当たりの診療単価が下降したものの、新型コロナウイルス感染症専用病床から一般病床に戻したことにより整形外科等で入院患者数が増加したことである。

減少したものは、外来収益 1,976 万 992 円（3.6%）、その他医業収益 1,020 万 9,637 円（21.6%）である。外来収益が減少した要因は、内科で新型コロナウイルス感染症の患者数が減少したことである。その他医業収益が減少した要因は、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種件数が減少したことである。

医業外収益は、負担金・交付金 2 億 1,976 万 3,404 円、補助金 9,007 万 8,000 円を始め総額 3 億 4,720 万 4,693 円で、前年度に比べ 2 億 8,131 万 4,238 円（44.8%）減少している。

減少した主なものは、補助金 2 億 7,822 万 6,000 円（75.5%）である。補助金が減少した要因は、新型コロナウイルス感染症関連の県補助金が減少したことである。

特別利益は、239 万 1,928 円で前年度に比べ 67 万 3,837 円（39.2%）増加している。

病院事業収益について、項目別に前年度と比較すれば次のとおりである。

区 分		令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前年度 対 比
		決 算 額	構成比	決 算 額	構成比	
医 業 収 益	入 院 収 益	円 15,906,218,531	% 60.3	円 15,068,943,789	% 55.8	% 105.6
	内 市 民 病 院	14,474,220,610	54.8	13,670,813,369	50.6	105.9
	木 曽 川 市 民 病 院	1,431,997,921	5.4	1,398,130,420	5.2	102.4
	外 来 収 益	7,900,768,996	29.9	7,780,063,977	28.8	101.6
	内 市 民 病 院	7,372,200,373	27.9	7,231,733,772	26.8	101.9
	木 曽 川 市 民 病 院	528,628,273	2.0	548,389,265	2.0	96.4
	そ の 他 医 業 収 益	341,818,146	1.3	342,547,508	1.3	99.8
	内 市 民 病 院	304,994,264	1.2	295,373,526	1.1	103.3
	木 曽 川 市 民 病 院	36,998,842	0.1	47,208,479	0.2	78.4
	計	24,148,805,673	91.5	23,191,555,274	85.9	104.1
	内 市 民 病 院	22,151,415,247	83.9	21,197,920,667	78.5	104.5
	木 曽 川 市 民 病 院	1,997,625,036	7.6	1,993,728,164	7.4	100.2
医 業 外 収 益	受 取 利 息	226,456	0.0	129,433	0.0	175.0
	内 市 民 病 院	164,704	0.0	88,287	0.0	186.6
	木 曽 川 市 民 病 院	61,752	0.0	41,146	0.0	150.1
	補 助 金	390,180,816	1.5	1,942,289,223	7.2	20.1
	内 市 民 病 院	300,102,816	1.1	1,573,985,223	5.8	19.1
	木 曽 川 市 民 病 院	90,078,000	0.3	368,304,000	1.4	24.5
	負 担 金 ・ 交 付 金	1,345,524,719	5.1	1,367,416,588	5.1	98.4
	内 市 民 病 院	1,125,761,315	4.3	1,142,653,021	4.2	98.5
	木 曽 川 市 民 病 院	219,763,404	0.8	224,763,567	0.8	97.8
	患 者 外 給 食 収 益 (市 民 病 院)	1,055,925	0.0	970,024	0.0	108.9
	保 育 収 益 (市 民 病 院)	7,590,632	0.0	5,894,025	0.0	128.8

区 分			令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前年度 対 比
			決 算 額	構成比	決 算 額	構成比	
医 業 外 収 益	長期前受金戻入		378,232,833	1.4	345,215,906	1.3	109.6
	内 訳	市民病院	351,173,154	1.3	317,743,256	1.2	110.5
		木曽川 市民病院	27,059,679	0.1	27,472,650	0.1	98.5
	雑 収 益		60,596	0.0	31,332	0.0	193.4
	内 訳	市民病院	60,315	0.0	17,929	0.0	336.4
		木曽川 市民病院	281	0.0	13,403	0.0	2.1
	その他医業外収益		114,480,677	0.4	148,194,988	0.5	77.3
	内 訳	市民病院	104,239,100	0.4	140,270,823	0.5	74.3
		木曽川 市民病院	10,241,577	0.0	7,924,165	0.0	129.2
	計		2,237,352,654	8.5	3,810,141,519	14.1	58.7
	内 訳	市民病院	1,890,147,961	7.2	3,181,622,588	11.8	59.4
		木曽川 市民病院	347,204,693	1.3	628,518,931	2.3	55.2
特 別 利 益	過 年 度 収 益		2,396,220	0.0	1,359,344	0.0	176.3
	内 訳	市民病院	4,292	0.0	120,082	0.0	3.6
		木曽川 市民病院	2,391,928	0.0	1,239,262	0.0	193.0
	その他特別利益		2,456,854	0.0	8,365,304	0.0	29.4
	内 訳	市民病院	2,456,854	0.0	7,886,475	0.0	31.2
		木曽川 市民病院	—	—	478,829	0.0	—
	計		4,853,074	0.0	9,724,648	0.0	49.9
	内 訳	市民病院	2,461,146	0.0	8,006,557	0.0	30.7
		木曽川 市民病院	2,391,928	0.0	1,718,091	0.0	139.2
	合 計		26,391,011,401	100.0	27,011,421,441	100.0	97.7
	内 訳	市民病院	24,044,024,354	91.1	24,387,549,812	90.3	98.6
		木曽川 市民病院	2,347,221,657	8.9	2,623,965,186	9.7	89.5

(注) 1 医業収益の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので内訳の2病院の決算額と一致しない。

2 内部取引として医業収益から相殺された額は、令和4年度が93,557円、令和5年度が234,610円である。

(2) 費 用

ア 市民病院

医業費用は、229 億 8,967 万 6,734 円で前年度に比べ 5 億 1,331 万 547 円 (2.3%) 増加している。

増加した主なものは、給与費 2 億 9,682 万 8,682 円 (2.9%)、材料費 2 億 3,118 万 2,508 円 (3.2%) である。給与費が増加した要因は、看護師を増員したことなどにより給料や手当が増加したことや、前年度まで委託していた保育所運営業務を当年度は病院直営で行ったことにより保育士を直接雇用したことで給料や手当が増加したことである。材料費が増加した要因は、抗がん剤などの高額な薬品や血液外科領域、循環器領域の高額な診療材料の使用量が増加したことである。

医業外費用は、13 億 7,875 万 311 円で前年度に比べ 1 億 2,741 万 380 円 (8.5%) 減少している。減少した主なものは、保育費 9,443 万 4,691 円 (94.5%) である。保育費が減少した要因は、前年度まで委託していた保育所運営業務を当年度は病院直営で行ったことにより運営委託料が皆減したことである。

特別損失は、152 万 1,417 円で前年度に比べ 215 万 16 円 (58.6%) 減少している。

イ 木曽川市民病院

医業費用は、23 億 3,390 万 733 円で前年度に比べ 1,725 万 9,989 円 (0.7%) 減少している。

減少した主なものは、材料費 3,570 万 8,529 円 (12.2%) である。材料費が減少した要因は、新型コロナウイルス感染症の入院患者に対する高額な薬品の使用量が減少したことである。なお、増加した主なものは、給与費 1,045 万 7,495 円 (0.7%)、経費 914 万 5,524 円 (2.2%) である。給与費が増加した要因は、退職給付費が減少したものの、時間外勤務の増加により時間外手当が増加したことである。経費が増加した要因は、看護補助業務紹介派遣委託料等の委託料が増加したことである。

医業外費用は、8,020 万 5,472 円で前年度に比べ 521 万 2,605 円 (6.1%) 減少している。

減少した主なものは、雑損失 259 万 6,030 円 (3.7%)、長期前払消費税償却 156 万 5,288 円 (21.9%) である。

特別損失は、282 万 5,805 円で前年度に比べ 109 万 7,901 円 (28.0%) 減少している。

病院事業費用について、項目別に前年度と比較すれば次のとおりである。

[illegible]

区 分			令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前年度 対 比
			決 算 額	構成比	決 算 額	構成比	
医 業 外 費 用	支 払 利 息		189,987,350	0.7	200,289,281	0.8	94.9
	内 訳	市 民 病 院	182,010,740	0.7	191,261,384	0.7	95.2
		木 曽 川 市 民 病 院	7,976,610	0.0	9,027,897	0.0	88.4
	患 者 外 給 食 費 (市 民 病 院)		632,055	0.0	583,770	0.0	108.3
	保 育 費 (市 民 病 院)		5,536,199	0.0	99,970,890	0.4	5.5
	長 期 前 払 却 消 費 税 償		159,909,229	0.6	174,942,894	0.7	91.4
	内 訳	市 民 病 院	154,324,080	0.6	167,792,457	0.6	92.0
		木 曽 川 市 民 病 院	5,585,149	0.0	7,150,437	0.0	78.1
	雑 損 失		1,102,890,950	4.1	1,115,791,933	4.2	98.8
	内 訳	市 民 病 院	1,036,247,237	3.9	1,046,552,190	4.0	99.0
		木 曽 川 市 民 病 院	66,643,713	0.2	69,239,743	0.3	96.3
	計		1,458,955,783	5.4	1,591,578,768	6.0	91.7
	内 訳	市 民 病 院	1,378,750,311	5.1	1,506,160,691	5.7	91.5
		木 曽 川 市 民 病 院	80,205,472	0.3	85,418,077	0.3	93.9
特 別 損 失	過 年 度 損 失		4,347,222	0.0	4,657,989	0.0	93.3
	内 訳	市 民 病 院	1,521,417	0.0	1,103,643	0.0	137.9
		木 曽 川 市 民 病 院	2,825,805	0.0	3,554,346	0.0	79.5
	そ の 他 特 別 損 失		—	—	2,937,150	0.0	—
	内 訳	市 民 病 院	—	—	2,567,790	0.0	—
		木 曽 川 市 民 病 院	—	—	369,360	0.0	—
	計		4,347,222	0.0	7,595,139	0.0	57.2
	内 訳	市 民 病 院	1,521,417	0.0	3,671,433	0.0	41.4
		木 曽 川 市 民 病 院	2,825,805	0.0	3,923,706	0.0	72.0
	合 計		26,786,645,862	100.0	26,426,607,259	100.0	101.4
	内 訳	市 民 病 院	24,369,948,462	91.0	23,986,198,311	90.8	101.6
		木 曽 川 市 民 病 院	2,416,932,010	9.0	2,440,502,505	9.2	99.0

(注) 1 医業費用の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので内訳の2病院の決算額と一致しない。

2 内部取引として医業費用から相殺された額は、令和4年度が93,557円、令和5年度が234,610円である。

(3) 一般会計からの繰入金

一般会計が繰出しを行う場合の基準となる基本的な考え方を総務省が定めた「地方公営企業繰出金の基準」に基づき一般会計から繰り入れた金額は次のとおりであり、収益的収入に係る繰入金は、全額医業外収益に計上されている。

区 分		令和 5 年 度	令和 4 年 度	前年度対比
市民病院	収 益 の 収 入	円	円	%
	企業債利息償還金負担金	92,681,123	97,826,758	94.7
	医師等研究研修経費負担金	20,190,678	11,533,475	175.1
	基礎年金拠出金公的負担経費負担金	199,668,154	227,550,895	87.7
	救急医療確保経費負担金	257,433,575	253,456,936	101.6
	高度医療経費負担金	89,697,594	69,579,711	128.9
	特殊医療経費負担金	40,081,220	39,481,310	101.5
	周産期医療経費負担金	108,110,216	107,764,263	100.3
	小児医療経費負担金	6,958,560	6,924,360	100.5
	保健衛生行政事務経費負担金	55,741,137	56,380,272	98.9
	共済追加費用負担経費負担金	40,230,840	41,993,784	95.8
	リハビリテーション医療経費負担金	60,100,535	60,458,941	99.4
	結核医療経費負担金	67,067,089	67,339,174	99.6
	感染症医療経費負担金	0	0	—
	児童手当経費負担金	33,376,000	35,670,000	93.6
	院内保育所運営経費負担金	48,468,189	26,748,838	181.2
	小 計	1,119,804,910	1,102,708,717	101.6
	資 本 の 収 入			
	企業債元金償還金負担金	285,547,525	266,649,959	107.1
	合 計	1,405,352,435	1,369,358,676	102.6
木曽川市民病院	収 益 の 収 入			
	企業債利息償還金負担金	5,306,264	5,988,813	88.6
	医師等研究研修経費負担金	2,840,076	1,914,527	148.3
	基礎年金拠出金公的負担経費負担金	28,514,170	31,508,882	90.5
	救急医療確保経費負担金	36,335,023	33,534,611	108.4
	高度医療経費負担金	5,807,373	5,807,373	100.0
	特殊医療経費負担金	32,468,227	31,950,477	101.6
	保健衛生行政事務経費負担金	33,029,600	32,894,700	100.4
	共済追加費用負担経費負担金	5,367,072	5,818,392	92.2
	リハビリテーション医療経費負担金	62,424,709	62,981,804	99.1
	児童手当経費負担金	6,466,000	6,440,000	100.4
	小 計	218,558,514	218,839,579	99.9
	資 本 の 収 入			
	企業債元金償還金負担金	37,880,256	37,197,709	101.8
合 計	256,438,770	256,037,288	100.2	
総 計		1,661,791,205	1,625,395,964	102.2

(4) 経営分析

経営の健全性、効率性について示す主な指標は、次のとおりである。

なお、病院事業全体の比率の算出に当たっては、市民病院と木曽川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去された数値を用いた。

ア 経常収支比率

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	%	%	%	%	%
病院事業全体	92.5	98.9	105.0	102.2	98.5
市民病院	92.2	99.5	105.0	101.7	98.7
木曽川市民病院	95.1	93.5	104.4	107.6	97.1

(注)算式

$$\text{経常収支比率(\%)} = \text{経常収益} / \text{経常費用} \times 100$$

経常収支比率は、医業費用、医業外費用に対する医業収益、医業外収益の割合を表し、通常の病院活動による収益状況を示す指標である。公立病院経営強化ガイドラインでは、公立病院が地域の医療提供体制の中で、適切に役割・機能を果たし良質な医療を提供していくためには、一般会計から所定の繰出しが行われれば「経常黒字」となる水準を早期に達成し、これを維持することにより持続可能な経営を実現する必要があるとされている。

当年度における経常収支比率は、市民病院では、新型コロナウイルス感染症関連の国・県補助金の減少により経常収益が減少し、看護師の増員による給与費の増加や、高額な薬品や診療材料の使用量増による材料費の増加により経常費用が増加したため、前年度に比べ3.0ポイント悪化し98.7%となった。

木曽川市民病院では、新型コロナウイルス感染症の入院患者に対する高額な薬品の使用量減などによる材料費の減少により経常費用が減少したものの、新型コロナウイルス感染症関連の県補助金の減少による経常収益の減少が上回ったため、前年度に比べ10.5ポイント悪化し97.1%となった。

イ 医業収支比率

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	%	%	%	%	%
病院事業全体	89.8	89.5	94.2	93.4	95.4
市民病院	90.0	90.1	94.9	94.3	96.4
木曽川市民病院	87.8	84.7	87.3	84.8	85.6

(注)算式

$$\text{医業収支比率(\%)} = \text{医業収益} / \text{医業費用} \times 100$$

医業収支比率は、病院の本業である医業活動から生じる医業費用に対する医業収益の割合を示す指標で、医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示すものであり、医業活動における経営状況を判断するものである。

当年度における医業収支比率は、市民病院では、前述したとおり給与費、材料費の増加により医業費用が増加したものの、入院収益の増加による医業収益の増加が上回ったため、前年度に比べ2.1ポイント改善し96.4%となった。

木曽川市民病院では、入院収益の増加により医業収益が増加し、前述したとおり材料費の減少による医業費用が減少したため、前年度に比べ0.8ポイント改善し85.6%となった。

ウ 患者1人1日当たり収益

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入院	病院事業全体	円 64,329	円 70,514	円 73,032	円 76,023	円 76,353
	市民病院	71,845	79,355	82,094	84,484	86,396
	木曽川市民病院	33,931	35,111	35,655	38,411	35,105
外来	病院事業全体	19,883	21,551	22,538	23,024	23,858
	市民病院	20,183	22,091	23,321	23,877	24,798
	木曽川市民病院	16,927	16,739	15,652	15,649	15,609

(注)算式

入院患者1人1日当たり収益(円)＝入院収益／年延入院患者数

外来患者1人1日当たり収益(円)＝外来収益／年延外来患者数

この指標は、入院、外来患者への診療及び療養に係る収益について、入院、外来患者1人1日当たりの平均単価を示すもので、経年比較で減少傾向にある場合は、その原因について分析し、安定した収益が確保できるよう、改善に向けて検討することが求められる。

入院患者1人1日当たり収益は、市民病院では、医師事務作業補助体制加算のランクアップや請求点数の高い施設基準の届出を行ったことにより前年度に比べ1,912円増加し8万6,396円となった。

木曽川市民病院では、新型コロナウイルス感染症患者の診療に係る診療報酬特例加算や高額な薬品の使用量の減少により前年度に比べ3,306円減少し3万5,105円となった。

外来患者1人1日当たり収益は、市民病院では、化学療法等における高額な薬品の使用量の増加や、診療単価の高い時間外の取扱患者数の増加により前年度に比べ921円増加し2万4,798円となった。

木曽川市民病院では、整形外科で薬品の使用量が減少したことにより前年度に比べ40円減少し1万5,609円となり、直近4か年において減少傾向にある。

エ 職員 1 人当たり医業収益

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
病院事業全体	千円 16,128	千円 13,663	千円 14,622	千円 14,933	千円 15,037
市民病院	16,812	14,336	15,390	15,772	15,856
木曾川 市民病院	11,708	9,382	9,626	9,539	9,558

(注)算式

職員1人当たり医業収益(千円)＝医業収益／職員数

職員 1 人当たり医業収益は、職員 1 人当たりの生産性を病院の主たる収入である医業収益の面から見た指標で、大きいほど良いとされている。

当年度の職員 1 人当たり医業収益は、市民病院では、前年度に比べ 84 千円増の 15,856 千円、木曾川市民病院では、19 千円増の 9,558 千円となった。

4 財政状態

当年度の資産総額は、313 億 4,159 万 4,391 円で前年度に比べ 12 億 5,996 万 8,278 円(3.9%)減少している。

資産の構成比率は、固定資産 61.9%、流動資産 38.1%である。

次に、負債及び資本の総額は、313 億 4,159 万 4,391 円で、その構成比率は、固定負債 52.5%、流動負債 11.5%、繰延収益 2.5%、資本金 61.2%、剰余金マイナス 27.7%となっている。

(1) 固定資産

固定資産総額は、194 億 281 万 5,850 円で前年度に比べ 13 億 4,487 万 3,814 円(6.5%)減少している。

固定資産の内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。

区 分		令 和 5 年 度	令 和 4 年 度	増 ・ △ 減	前 年 度 対 比
		円	円	円	%
有 形 固 定 資 産		19,145,382,935	20,400,792,128	△1,255,409,193	93.8
内 訳	市 民 病 院	18,142,105,112	19,301,418,658	△1,159,313,546	94.0
	木 曽 川 市 民 病 院	1,003,277,823	1,099,373,470	△96,095,647	91.3
無 形 固 定 資 産		2,219,027	2,219,027	0	100.0
内 訳	市 民 病 院	1,906,200	1,906,200	0	100.0
	木 曽 川 市 民 病 院	312,827	312,827	0	100.0
投 資 そ の 他 の 資 産		255,213,888	344,678,509	△89,464,621	74.0
内 訳	市 民 病 院	241,603,677	328,033,885	△86,430,208	73.7
	木 曽 川 市 民 病 院	13,610,211	16,644,624	△3,034,413	81.8
合 計		19,402,815,850	20,747,689,664	△1,344,873,814	93.5
内 訳	市 民 病 院	18,385,614,989	19,631,358,743	△1,245,743,754	93.7
	木 曽 川 市 民 病 院	1,017,200,861	1,116,330,921	△99,130,060	91.1

市民病院の固定資産総額は、183 億 8,561 万 4,989 円で前年度に比べ 12 億 4,574 万 3,754 円(6.3%)減少している。

有形固定資産では、器械及び備品などの増加があるものの、減価償却と器械及び備品などの除却により、全体として 11 億 5,931 万 3,546 円(6.0%)減少となっている。

投資その他の資産では、長期前払消費税の減少により、8,643 万 208 円（26.3％）減少している。

木曽川市民病院の固定資産総額は、10 億 1,720 万 861 円で前年度に比べ 9,913 万 60 円（8.9％）減少している。

有形固定資産では、器械及び備品の増加があるものの、減価償却と器械及び備品の除却により、全体として 9,609 万 5,647 円（8.7％）減少となっている。

投資その他の資産では、長期前払消費税の減少により、303 万 4,413 円（18.2％）減少している。

(2) 流動資産

流動資産総額は、119 億 3,877 万 8,541 円で前年度に比べ 8,490 万 5,536 円（0.7%）増加している。

流動資産の内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。

区 分		令 和 5 年 度	令 和 4 年 度	増 ・ △ 減	前 年 度 対 比
		円	円	円	%
現 金 預 金		7,400,049,205	6,794,435,583	605,613,622	108.9
内 訳	市 民 病 院	5,486,638,956	4,914,775,676	571,863,280	111.6
	木 曽 川 市 民 病 院	1,913,410,249	1,879,659,907	33,750,342	101.8
未 収 金		4,329,900,260	4,908,779,565	△578,879,305	88.2
内 訳	市 民 病 院	4,008,482,573	4,506,673,935	△498,191,362	88.9
	木 曽 川 市 民 病 院	323,954,162	404,953,741	△80,999,579	80.0
貸 倒 引 当 金		△17,922,494	△19,222,496	1,300,002	93.2
内 訳	市 民 病 院	△17,098,279	△18,348,797	1,250,518	93.2
	木 曽 川 市 民 病 院	△824,215	△873,699	49,484	94.3
貯 蔵 品		221,146,841	169,266,429	51,880,412	130.7
内 訳	市 民 病 院	214,696,908	163,180,733	51,516,175	131.6
	木 曽 川 市 民 病 院	6,449,933	6,085,696	364,237	106.0
前 払 費 用		5,604,729	579,284	5,025,445	967.5
内 訳	市 民 病 院	5,604,729	578,294	5,026,435	969.2
	木 曽 川 市 民 病 院	—	990	△990	—
前 払 金 (木曽川市民病院)		—	34,640	△34,640	—
合 計		11,938,778,541	11,853,873,005	84,905,536	100.7
内 訳	市 民 病 院	9,698,324,887	9,566,859,841	131,465,046	101.4
	木 曽 川 市 民 病 院	2,242,990,129	2,289,861,275	△46,871,146	98.0

(注) 1 未収金の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので、内訳の2病院の決算額の計と一致しない。

2 内部取引として未収金から相殺消去された額は令和4年度が2,848,111円、令和5年度が2,536,475円である。

ここで、前表の未収金及び貸倒引当金に固定資産の投資その他の資産に計上されている長期未収金（市民病院 547 万 4,994 円、木曽川市民病院 52 万 8,473 円）及び貸倒引当金（市民病院 273 万 7,497 円、木曽川市民病院 26 万 4,237 円）を加えると、それぞれ次のとおりとなる。

区 分		令 和 5 年 度	令 和 4 年 度	増 ・ △ 減	前 年 度 対 比
		円	円	円	%
未 収 金		4,335,903,727	4,908,779,565	△572,875,838	88.3
内 訳	市 民 病 院	4,013,957,567	4,506,673,935	△492,716,368	89.1
	木 曽 川 市 民 病 院	324,482,635	404,953,741	△80,471,106	80.1
貸 倒 引 当 金		△20,924,228	△19,222,496	△1,701,732	108.9
内 訳	市 民 病 院	△19,835,776	△18,348,797	△1,486,979	108.1
	木 曽 川 市 民 病 院	△1,088,452	△873,699	△214,753	124.6

（注） 1 未収金の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので、内訳の 2 病院の決算額の計と一致しない。

2 内部取引として未収金から相殺消去された額は令和 4 年度が 2,848,111 円、令和 5 年度が 2,536,475 円である。

未収金のうち主なものは、市民病院では入院収益 25 億 2,927 万 1,308 円、外来収益 11 億 2,656 万 1,152 円、負担金・交付金 1 億 9,966 万 8,154 円、木曽川市民病院では入院収益 2 億 4,305 万 2,645 円、外来収益 7,791 万 871 円である。

市民病院の未収金は、前年度に比べ 4 億 9,271 万 6,368 円（10.9%）減少している。減少した主なものは、国・県補助金 2 億 8,877 万 1,633 円（81.9%）、入院収益 1 億 1,902 万 1,349 円（4.5%）、外来収益 7,928 万 5,936 円（6.6%）、負担金・交付金 3,178 万 2,741 円（13.7%）である。

木曽川市民病院の未収金は、前年度に比べ 8,047 万 1,106 円（19.9%）減少している。減少した主なものは、県補助金 9,307 万 7,000 円（皆減）である。

未収金の大半を占める入院収益、外来収益等は、保険請求分と患者負担分である。そのうち保険請求分については、年度末分が通常次年度当初に収入される性質のもので、企業会計上では未収金として整理するが、本質的には滞納分にはあたらない。そこで、5 月末現在の医業未収金を前年同月と比較してみると、市民病院では減少し、木曽川市民病院では増加している。そのうち現年度（決算年度）分についても市民病院では減少し、木曽川市民病院では増加している。過年度分については市民病院では増加し、木曽川市民病院では減少している。

未収金の中で注視すべきものは患者負担分であり、その対策には 2 病院とも努力されているところである。未収金は経営を悪化させる要因となりかねないため、適切な予防策を講じることと未収金の発生防止に取り組むとともに、発生後には効率的、効果的な対策により早期収納に努められるよう要望する。

また、貸倒引当金は、金銭債権の貸倒れに備えて将来の回収不納見込額が計上されたものであり、不納欠損処理に伴い貸倒引当金の取崩しが行われる。

そこで、不納欠損額をみると、市民病院の不納欠損額は483万6,835円（貸倒引当金取崩額483万6,835円）で前年度に比べ63万9,268円（11.7%）減少しており、木曽川市民病院の不納欠損額は37万4,460円（貸倒引当金取崩額37万4,460円）で前年度に比べ101万8,514円（73.1%）減少している。不納欠損処分は、今後とも慎重かつ適正な取扱いを望むものである。

なお、貯蔵品について調査したところ、その受払い及び管理は、良好に行われていた。

（３）固 定 負 債

固定負債総額は、164億4,653万4,048円で前年度に比べ6億7,310万7,203円（3.9%）減少している。

固定負債の内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。

区 分		令 和 5 年 度	令 和 4 年 度	増 ・ △ 減	前 年 度 対 比
		円	円	円	%
企 業 債		10,521,877,901	11,204,226,150	△682,348,249	93.9
内 訳	市 民 病 院	10,200,582,197	10,822,797,024	△622,214,827	94.3
	木 曽 川 市 民 病 院	321,295,704	381,429,126	△60,133,422	84.2
リ ー ス 債 務		570,350,254	774,947,388	△204,597,134	73.6
内 訳	市 民 病 院	567,401,381	757,816,576	△190,415,195	74.9
	木 曽 川 市 民 病 院	2,948,873	17,130,812	△14,181,939	17.2
退 職 給 付 引 当 金		5,354,305,893	5,140,467,713	213,838,180	104.2
内 訳	市 民 病 院	4,526,927,039	4,381,545,954	145,381,085	103.3
	木 曽 川 市 民 病 院	827,378,854	758,921,759	68,457,095	109.0
合 計		16,446,534,048	17,119,641,251	△673,107,203	96.1
内 訳	市 民 病 院	15,294,910,617	15,962,159,554	△667,248,937	95.8
	木 曽 川 市 民 病 院	1,151,623,431	1,157,481,697	△5,858,266	99.5

市民病院の固定負債総額は、152億9,491万617円で前年度に比べ6億6,724万8,937円（4.2%）減少している。

木曽川市民病院の固定負債総額は、11億5,162万3,431円で前年度に比べ585万8,266円（0.5%）減少している。

(4) 流 動 負 債

流動負債総額は、36 億 255 万 7,746 円で前年度に比べ 1 億 5,833 万 7,413 円（4.2%）減少している。

流動負債の内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。

区 分		令 和 5 年 度	令 和 4 年 度	増 ・ △ 減	前 年 度 対 比
		円	円	円	%
企 業 債		682,348,249	587,361,242	94,987,007	116.2
内 訳	市 民 病 院	622,214,827	528,273,243	93,941,584	117.8
	木 曽 川 市 民 病 院	60,133,422	59,087,999	1,045,423	101.8
リ ー ス 債 務		354,972,958	416,159,811	△61,186,853	85.3
内 訳	市 民 病 院	340,791,019	400,047,711	△59,256,692	85.2
	木 曽 川 市 民 病 院	14,181,939	16,112,100	△1,930,161	88.0
未 払 金		1,677,843,811	1,943,176,142	△265,332,331	86.3
内 訳	市 民 病 院	1,559,672,268	1,731,401,642	△171,729,374	90.1
	木 曽 川 市 民 病 院	120,708,018	214,622,611	△93,914,593	56.2
預 り 金		92,271,929	95,190,726	△2,918,797	96.9
内 訳	市 民 病 院	82,429,561	83,340,870	△911,309	98.9
	木 曽 川 市 民 病 院	9,842,368	11,849,856	△2,007,488	83.1
賞 与 引 当 金		673,991,346	608,606,753	65,384,593	110.7
内 訳	市 民 病 院	581,588,478	529,628,278	51,960,200	109.8
	木 曽 川 市 民 病 院	92,402,868	78,978,475	13,424,393	117.0
法 定 福 利 費 引 当 金		121,129,453	110,400,485	10,728,968	109.7
内 訳	市 民 病 院	104,532,197	95,789,491	8,742,706	109.1
	木 曽 川 市 民 病 院	16,597,256	14,610,994	1,986,262	113.6
合 計		3,602,557,746	3,760,895,159	△158,337,413	95.8
内 訳	市 民 病 院	3,291,228,350	3,368,481,235	△77,252,885	97.7
	木 曽 川 市 民 病 院	313,865,871	395,262,035	△81,396,164	79.4

(注) 1 未払金の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので、内訳の2病院の決算額の計と一致しない。

2 内部取引として未収金から相殺消去された額は、令和4年度が2,848,111円、令和5年度が2,536,475円である。

市民病院の流動負債総額は、32 億 9,122 万 8,350 円で前年度に比べ 7,725 万 2,885 円(2.3%)減少している。

市民病院の未払金のうち主なものは、医業未払金では委託料などの経費 4 億 2,034 万 9,473 円、退職手当 2 億 3,835 万 7,484 円、手当などの給与費 1 億 7,461 万 4,794 円、医業外未払金では企業債利息 802 万 381 円、その他未払金では薬品・診療材料購入費 5 億 5,780 万 3,689 円、建設改良未払金では器械及び備品購入費 8,453 万 1,502 円である。

木曽川市民病院の流動負債総額は、3 億 1,386 万 5,871 円で前年度に比べ 8,139 万 6,164 円(20.6%)減少している。

木曽川市民病院の未払金のうち主なものは、医業未払金では、委託料などの経費 4,637 万 4,793 円、医業外未払金では企業債利息 21 万 1,747 円、その他未払金では薬品購入費 1,571 万 9,399 円、建設改良未払金では器械及び備品購入費 317 万 7,933 円である。

(5) 繰延収益

繰延収益は、償却資産の取得又は改良に伴い交付される補助金、一般会計負担金等を、長期前受金として負債に計上したうえで、減価償却見合い分を順次収益化するものである。

繰延収益総額は、7 億 9,347 万 3,625 円で前年度に比べ 3,288 万 9,201 円(4.0%)減少している。

繰延収益の内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。

区 分		令和 5 年 度	令和 4 年 度	増 ・ △ 減	前 年 度 対 比
		円	円	円	%
長 期 前 受 金		3,957,335,857	3,629,885,371	327,450,486	109.0
内 訳	市 民 病 院	3,502,112,974	3,212,685,744	289,427,230	109.0
	木 曽 川 市 民 病 院	455,222,883	417,199,627	38,023,256	109.1
収 益 化 累 計 額		△3,163,862,232	△2,803,522,545	△360,339,687	112.9
内 訳	市 民 病 院	△2,918,323,496	△2,585,043,488	△333,280,008	112.9
	木 曽 川 市 民 病 院	△245,538,736	△218,479,057	△27,059,679	112.4
合 計		793,473,625	826,362,826	△32,889,201	96.0
内 訳	市 民 病 院	583,789,478	627,642,256	△43,852,778	93.0
	木 曽 川 市 民 病 院	209,684,147	198,720,570	10,963,577	105.5

(6) 資 本 金

資本金総額は、191 億 8,834 万 8,623 円で前年度と同額である。

(7) 剰 余 金

剰余金総額は、マイナス 86 億 8,931 万 9,651 円で前年度に比べ 3 億 9,563 万 4,461 円(4.8%) マイナス額が増加している。

剰余金の内訳及び当年度中の増減状況は、次のとおりである。

区 分		令 和 5 年 度	令 和 4 年 度	増 ・ △ 減 内 訳
資 本 剰 余 金		円 39,083,874	円 39,083,874	円 0
内 訳	市 民 病 院	30,043,874	30,043,874	0
	木 曽 川 市 民 病 院	9,040,000	9,040,000	0
利 益 剰 余 金		△8,728,403,525	△8,332,769,064	△395,634,461 (当年度純損失)
内 訳	市 民 病 院	△6,517,762,266	△6,191,838,158	△325,924,108 (当年度純損失)
	木 曽 川 市 民 病 院	△2,210,641,259	△2,140,930,906	△69,710,353 (当年度純損失)
合 計		△8,689,319,651	△8,293,685,190	△395,634,461
内 訳	市 民 病 院	△6,487,718,392	△6,161,794,284	△325,924,108
	木 曽 川 市 民 病 院	△2,201,601,259	△2,131,890,906	△69,710,353

市民病院当年度未処理欠損金 65 億 1,776 万 2,266 円及び木曽川市民病院当年度未処理欠損金 22 億 1,064 万 1,259 円は、欠損金処理計算書のとおり、全額翌年度へ繰り越される。

（８）財務分析

経営の健全性について示す主な指標は、次のとおりである。

なお、病院事業全体の比率の算出に当たっては、市民病院と木曽川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去された数値を用いた。

ア 自己資本構成比率

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
	%	%	%	%	%
病院事業全体	30.7	31.3	34.8	36.0	36.0
市民病院	28.6	29.4	33.0	33.8	33.8
木曽川市民病院	48.6	47.6	50.8	54.4	55.0

(注)算式

$$\text{自己資本構成比率（％）} = (\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}) / \text{負債・資本合計} \times 100$$

自己資本構成比率は、総資本（負債・資本合計）のうち、どの程度が自己資本で賄われているかを示している。財務状態の長期的な安全性の見方として、その事業の資本構成が重要であり、この比率が高いほど負債（借入金）が少ないと判断されることが多く、経営の安全性は高いといえる。一般的に、公営企業は、施設の建設費を企業債によって調達していることが多いので、低くなる傾向にある。

当年度の自己資本構成比率は、市民病院では、前年度と同様 33.8%、木曽川市民病院では、前年度に比べ 0.6 ポイント改善し 55.0%となり改善傾向にある。

イ 固定資産対長期資本比率

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
	%	%	%	%	%
病院事業全体	85.1	81.8	75.7	71.9	69.9
市民病院	89.8	86.1	79.6	76.0	74.2
木曽川市民病院	44.8	44.0	40.2	37.1	34.5

(注)算式

$$\text{固定資産対長期資本比率（％）} = \text{固定資産} / (\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}) \times 100$$

固定資産対長期資本比率は、固定資産が、どの程度返済期限のない自己資本（自己資本金、剰余金）や長期に活用可能な固定負債（長期借入金）によって調達されているかを示している。この比率は常に 100%以下で、かつ、低いことが望ましい。100%を上回っている場合には、固定資産の一部が一時借入金等の流動負債によって調達されていることを示す。一般的に、最も安全性を阻害するのは流動負債で固定資産を取得することで、この場合、この比率は著しく高くなり、不良債務発生の原因となる。

当年度の固定資産対長期資本比率は、市民病院では、前年度に比べ1.8ポイント改善し74.2%、木曽川市民病院では、前年度に比べ2.6ポイント改善し34.5%となり、2病院とも改善傾向にある。

ウ 流動比率

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	%	%	%	%	%
病院事業全体	227.2	242.1	298.0	315.2	331.4
市民病院	187.5	209.1	268.1	284.0	294.7
木曽川市民病院	557.7	512.0	529.6	579.3	714.6

(注)算式

流動比率(%)＝流動資産／流動負債×100

短期的な債務に対する支払能力を表す指標で、1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す。100%以上であることが必要であり、一般的に100%を下回るということは、1年以内に現金化できる資産で、1年以内に支払わなければならない負債を賄えておらず、支払能力を高めるための経営改善を図っていく必要がある。

当年度の流動比率は、市民病院では、前年度に比べ10.7ポイント改善し294.7%である。木曽川市民病院では、前年度に比べ135.3ポイント改善し714.6%となったが、これは流動負債が大きく減少したことによるものである。流動比率は2病院とも改善傾向にある。

(9) 資金の運用状況

キャッシュ・フロー計算書を基に市民病院、木曽川市民病院の資金運用状況をみると、次のとおりである。

ア 業務活動によるキャッシュ・フロー

業務活動によるキャッシュ・フローは、通常の業務活動の実施による資金の増減を表している。市民病院では、当年度純損失3億2,592万4,108円を計上し、減価償却費などにより17億9,920万3,838円の収入超過となっている。木曽川市民病院では、当年度純損失6,971万353円を計上し、減価償却費などにより1億2,369万5,006円の収入超過となっている。

イ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動による資金の増減を表している。市民病院では、一般会計からの繰入金による収入などがあったものの、有形固定資産の取得による支出により2億8,874万3,023円の支出超過となっている。木曽川市民病院では、一般会計からの繰入金による収入があったものの、有形固定資産の取得による支出により1,474万6,684円の支出超過となっている。

なお、業務活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計で求められるフリー・キャッシュ・フローは、業務活動で獲得した資金から、事業を維持するため

に必要な資金を差し引くことで、事業者が自由に使用できる余剰資金を表している。市民病院では、業務活動によるキャッシュ・フローの増加が投資活動によるキャッシュ・フローの減少を上回り、15億1,046万815円の収入超過となっている。木曽川市民病院では、業務活動によるキャッシュ・フローの増加が投資活動によるキャッシュ・フローの減少を上回り、1億894万8,322円の収入超過となっている。

ウ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、資金が不足した場合にどのように資金の調達をしたのか、資金に余裕がある場合にどの程度借入金を返済したのかを表している。市民病院では、企業債の償還及びリース債務の返済による支出により9億3,859万7,535円の支出超過となっている。木曽川市民病院においても同様に7,519万7,980円の支出超過となっている。

この結果、当年度における資金期末残高は、市民病院では、前年度に比べ5億7,186万3,280円増の54億8,663万8,956円、木曽川市民病院では、3,375万342円増の19億1,341万249円となっている。

む す び

以上が当年度病院事業会計決算審査の概要であるが、ここに総括的な意見を述べて本審査のむすびとする。

業務状況は、総患者数延 53 万 9,483 人で、前年度に比べ 3,350 人増加した。その内訳をみると、入院患者数は、延 20 万 8,325 人で前年度に比べ 1 万 110 人増加し、外来患者数は、延 33 万 1,158 人で前年度に比べ 6,760 人減少している。

施設・設備面においては、市民病院では設備の老朽化に対する計画的な更新のため、南館 B 棟配膳室ほか空調設備や院内保育所照明設備などの改修工事を行った。また、MR I（磁気共鳴断層撮影装置）などを更新し、医療体制の充実・強化が図られた。木曽川市民病院では、透析用患者監視装置やポータブル心電計などの購入により、医療機器の充実が図られた。

経営成績は、市民病院では、事業収益 240 億 4,402 万円余（前年度比 98.6%）、事業費用 243 億 6,994 万円余（前年度比 101.6%）となり、差し引き 3 億 2,592 万円余の純損失となった。木曽川市民病院では、事業収益 23 億 4,722 万円余（前年度比 89.5%）、事業費用 24 億 1,693 万円余（前年度比 99.0%）となり、差し引き 6,971 万円余の純損失となった。この結果、病院事業全体では、3 億 9,563 万円余の純損失となり、前年度 5 億 8,481 万円余の純利益から 9 億 8,044 万円余利益が減少した。また、当年度未処理欠損金は 87 億 2,840 万円余に増加した。

当年度は、新型コロナウイルス感染症のさまざまな影響から離脱した 1 年であった。5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが 2 類相当から 5 類感染症となり、新型コロナウイルス感染症専用病床を一般病床に戻し、ワクチンの無料接種は終了した。経営資源を新型コロナウイルス感染症への対応以外に向けることができる経営環境となったことで医業収益は増加したものの、新型コロナウイルス感染症関連の国・県補助金が縮小・廃止されたことにより純損益は 3 年ぶりに赤字となった。それ以前は赤字が続いており、赤字体質からの脱却が求められている。そうした状況において、当年度に、総務省が示した「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」に基づき、「一宮市病院事業経営強化プラン」が策定されたところである。

同プランでは、目標最終年度の令和 9 年度に経常黒字化を目指し、経営強化を図るための様々な取組が盛り込まれている。とりわけ、職員にとってより働きやすく魅力ある職場環境を整えることで、医療職の人材確保に努め、選ばれる病院づくりを進められたい。また、目ざましく進化している ICT（情報通信技術）を積極的に利活用することで、一層の患者サービスと業務効率の向上に努め、同プランの実現に向けて職員一丸となって取り組まれたい。

最後に、市民病院は高度・急性期医療を担う地域の基幹病院として、木曽川市民病院は回復期医療を担う市民病院の後方支援病院として、それぞれの役割を果たし、質の高い医療を提供するとともに、健全な病院経営に取り組まれることを望むものである。

一宮市病院事業会計決算に基づく
資金不足比率審査意見

2024（令和6）年8月23日

一宮市長 中野正康様

一宮市監査委員 長谷川 伸 二

一宮市監査委員 丹 羽 達

一宮市監査委員 八 木 丈 之

一宮市監査委員 松 井 哲 朗

令和5年度一宮市公営企業会計（病院事業会計）決算に基づく
資金不足比率審査意見について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項の規定により審査に付された令和5年度一宮市病院事業会計決算に基づく資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類について審査した結果、次のとおりその意見を提出します。

令和5年度一宮市病院事業会計決算に基づく資金不足比率審査意見

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項による資金不足比率審査を一宮市監査委員監査基準に準拠して実施した。その概要及び結果は次のとおりである。

第1 審査の対象

令和5年度決算に基づく資金不足比率
上記比率の算定の基礎となる事項を記載した書類

第2 審査の方法等

1 主な着眼点

総務省が作成した記載要領、チェックポイント等に基づき、次の項目を主眼として審査を実施した。

- (1) 各比率の算定の基礎となる事項を記載した書類は適正に作成されているか。
- (2) 比率の算定は適正に行われているか。

2 主な実施内容

審査に当たっては、審査に付された資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類について、決算書類その他関係書類との照合確認を行うとともに、関係職員から説明を聴取するなどの方法により審査を実施した。

3 実施場所及び日程

	実施場所	日程
監査事務局による書類調査	監査事務局	2024年6月20日～ 同年7月10日
監査委員による本審査	木曽川市民病院会議室	同年7月24日

第3 審査の結果

審査に付された資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、法令に適合し、かつ正確に作成されているものと認められた。

なお、本事業会計に資金不足額はなく、資金不足比率は算出されないため、特に指摘すべき事項はない。

会 計 名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	経営健全化基準
病 院 事 業 会 計	—	—	—	20.0%

(注) 資金不足が発生していない場合は、資金不足比率を「—」で表示する。

病院事業会計決算審査資料

予 算 決 算

収			入		
科 目	予 算 現 額 (A)		決 算 額 (B)		執行率(%) (B/A)
	金 額 (円)	構成比(%)	金 額 (円)	構成比(%)	
市民病院収益の収入	24,028,781,000	91.0	24,082,750,130	91.1	100.2
医 業 収 益	22,219,853,000	84.2	22,182,621,048	83.9	99.8
医 業 外 収 益	1,808,008,000	6.9	1,897,667,936	7.2	105.0
特 別 利 益	920,000	0.0	2,461,146	0.0	267.5
木曽川市民病院収益の収入	2,365,149,000	9.0	2,351,500,602	8.9	99.4
医 業 収 益	2,041,783,000	7.7	2,001,392,035	7.6	98.0
医 業 外 収 益	320,975,000	1.2	347,716,639	1.3	108.3
特 別 利 益	2,391,000	0.0	2,391,928	0.0	100.0
収 益 の 収 入 合 計	26,393,930,000	100.0	26,434,250,732	100.0	100.2
市民病院資本の収入	307,510,000	89.0	307,022,430	89.0	99.8
負 担 金	306,889,000	88.8	306,501,430	88.8	99.9
寄 附 金	100,000	0.0	0	0.0	0.0
補 助 金	521,000	0.2	521,000	0.2	100.0
木曽川市民病院資本の収入	38,046,000	11.0	38,023,256	11.0	99.9
負 担 金	38,046,000	11.0	38,023,256	11.0	99.9
資 本 の 収 入 合 計	345,556,000	100.0	345,045,686	100.0	99.9
(補てん財源)					
当年度分消費税及び地方 消費税資本の収支調整額			1,218,781		
過年度分損益勘定留保資金			1,262,389,410		

対 照 表

支			出		
科 目	予 算 現 額 (C)		決 算 額 (D)		執行率(%) (D/C)
	金 額 (円)	構成比(%)	金 額 (円)	構成比(%)	
市民病院収益の支出	24,774,026,000	90.6	24,395,227,919	91.0	98.5
医 業 費 用	23,638,183,000	86.5	23,285,026,074	86.8	98.5
医 業 外 費 用	1,134,163,178	4.1	1,108,622,023	4.1	97.7
特 別 損 失	1,579,822	0.0	1,579,822	0.0	100.0
予 備 費	100,000	0.0	0	0.0	0.0
木曽川市民病院収益の支出	2,561,087,000	9.4	2,420,846,473	9.0	94.5
医 業 費 用	2,519,494,000	9.2	2,387,202,869	8.9	94.7
医 業 外 費 用	38,578,000	0.1	30,814,746	0.1	79.9
特 別 損 失	2,915,000	0.0	2,828,858	0.0	97.0
予 備 費	100,000	0.0	0	0.0	0.0
収 益 の 支 出 合 計	27,335,113,000	100.0	26,816,074,392	100.0	98.1
市民病院資本の支出	1,516,944,000	93.7	1,507,755,105	93.7	99.4
建 設 改 良 費	988,670,000	61.1	979,481,862	60.9	99.1
企 業 債 償 還 金	528,274,000	32.6	528,273,243	32.8	100.0
木曽川市民病院資本の支出	101,604,000	6.3	100,898,772	6.3	99.3
建 設 改 良 費	42,516,000	2.6	41,810,773	2.6	98.3
企 業 債 償 還 金	59,088,000	3.7	59,087,999	3.7	100.0
資 本 の 支 出 合 計	1,618,548,000	100.0	1,608,653,877	100.0	99.4

決 算 両 年

収			入		
科 目	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前 年 度 対 比 (%)
	金 額 (円)	構成比 (%)	金 額 (円)	構成比 (%)	
市民病院収益の収入	24,082,750,130	91.1	24,425,215,847	90.3	98.6
医 業 収 益	22,182,621,048	83.9	21,227,217,828	78.5	104.5
医 業 外 収 益	1,897,667,936	7.2	3,189,989,056	11.8	59.5
特 別 利 益	2,461,146	0.0	8,008,963	0.0	30.7
木曽川市民病院収益の収入	2,351,500,602	8.9	2,629,062,073	9.7	89.4
医 業 収 益	2,001,392,035	7.6	1,998,540,467	7.4	100.1
医 業 外 収 益	347,716,639	1.3	628,803,515	2.3	55.3
特 別 利 益	2,391,928	0.0	1,718,091	0.0	139.2
収 益 の 収 入 合 計	26,434,250,732	100.0	27,054,277,920	100.0	97.7
市民病院資本の収入	307,022,430	89.0	279,985,919	88.2	109.7
負 担 金	306,501,430	88.8	279,985,919	88.2	109.5
寄 附 金	0	0.0	0	0.0	—
補 助 金	521,000	0.2	—	—	—
木曽川市民病院資本の収入	38,023,256	11.0	37,465,229	11.8	101.5
負 担 金	38,023,256	11.0	37,465,229	11.8	101.5
資 本 の 収 入 合 計	345,045,686	100.0	317,451,148	100.0	108.7
(補てん財源)					
当年度分消費税及び地方 消費税資本の収支調整額	1,218,781		2,006,655		
過年度分損益勘定留保資金	1,262,389,410		1,151,284,973		

度 比 較 表

科 目	支		出		前 年 度 対 比 (%)
	令 和 5 年 度 金 額 (円)	構 成 比 (%)	令 和 4 年 度 金 額 (円)	構 成 比 (%)	
市民病院収益の支出	24,395,227,919	91.0	24,009,946,273	90.8	101.6
医 業 費 用	23,285,026,074	86.8	22,778,429,567	86.1	102.2
医 業 外 費 用	1,108,622,023	4.1	1,227,843,694	4.6	90.3
特 別 損 失	1,579,822	0.0	3,673,012	0.0	43.0
木曽川市民病院収益の支出	2,420,846,473	9.0	2,444,944,970	9.2	99.0
医 業 費 用	2,387,202,869	8.9	2,404,198,723	9.1	99.3
医 業 外 費 用	30,814,746	0.1	36,792,665	0.1	83.8
特 別 損 失	2,828,858	0.0	3,953,582	0.0	71.6
収 益 の 支 出 合 計	26,816,074,392	100.0	26,454,891,243	100.0	101.4
市民病院資本の支出	1,507,755,105	93.7	1,303,356,467	88.6	115.7
建 設 改 良 費	979,481,862	60.9	812,077,723	55.2	120.6
企 業 債 償 還 金	528,273,243	32.8	491,278,744	33.4	107.5
木曽川市民病院資本の支出	100,898,772	6.3	167,386,309	11.4	60.3
建 設 改 良 費	41,810,773	2.6	109,322,359	7.4	38.2
企 業 債 償 還 金	59,087,999	3.7	58,063,950	3.9	101.8
資 本 の 支 出 合 計	1,608,653,877	100.0	1,470,742,776	100.0	109.4

比 較 損 益 計 算 書

借 方					
科 目	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前 年 度 対 比 (%)
	金 額 (円)	構成比(%)	金 額 (円)	構成比(%)	
医 業 費 用	25,323,342,857	94.5	24,827,433,352	93.9	102.0
給 与 費	12,163,078,545	45.4	11,855,792,368	44.9	102.6
材 料 費	7,609,645,616	28.4	7,414,171,637	28.1	102.6
経 費*	3,534,857,025	13.2	3,590,901,152	13.6	98.4
減 価 償 却 費	1,905,418,486	7.1	1,859,354,890	7.0	102.5
資 産 減 耗 費	39,762,119	0.1	44,458,879	0.2	89.4
研 究 研 修 費	70,581,066	0.3	62,754,426	0.2	112.5
医 業 外 費 用	1,458,955,783	5.4	1,591,578,768	6.0	91.7
支 払 利 息	189,987,350	0.7	200,289,281	0.8	94.9
患 者 外 給 食 費	632,055	0.0	583,770	0.0	108.3
保 育 費	5,536,199	0.0	99,970,890	0.4	5.5
長期前払消費税償却	159,909,229	0.6	174,942,894	0.7	91.4
雑 損 失	1,102,890,950	4.1	1,115,791,933	4.2	98.8
特 別 損 失	4,347,222	0.0	7,595,139	0.0	57.2
過 年 度 損 失	4,347,222	0.0	4,657,989	0.0	93.3
その他特別損失	—	—	2,937,150	0.0	—
費 用 合 計	26,786,645,862	100.0	26,426,607,259	100.0	101.4
医 業 利 益	—		—		
経 常 利 益	—		582,684,673		
純 利 益	—		584,814,182		

(注) *印の科目は市民病院と木曽川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去され、純計と

(総 合)

貸 方					
科 目	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前 年 度 対 比 (%)
	金 額 (円)	構成比 (%)	金 額 (円)	構成比 (%)	
医 業 収 益	24,148,805,673	91.5	23,191,555,274	85.9	104.1
入 院 収 益	15,906,218,531	60.3	15,068,943,789	55.8	105.6
外 来 収 益*	7,900,768,996	29.9	7,780,063,977	28.8	101.6
その他医業収益*	341,818,146	1.3	342,547,508	1.3	99.8
医 業 外 収 益	2,237,352,654	8.5	3,810,141,519	14.1	58.7
受 取 利 息	226,456	0.0	129,433	0.0	175.0
補 助 金	390,180,816	1.5	1,942,289,223	7.2	20.1
負担金・交付金	1,345,524,719	5.1	1,367,416,588	5.1	98.4
患者外給食収益	1,055,925	0.0	970,024	0.0	108.9
保 育 収 益	7,590,632	0.0	5,894,025	0.0	128.8
長期前受金戻入	378,232,833	1.4	345,215,906	1.3	109.6
雑 収 益	60,596	0.0	31,332	0.0	193.4
その他医業外収益	114,480,677	0.4	148,194,988	0.5	77.3
特 別 利 益	4,853,074	0.0	9,724,648	0.0	49.9
過 年 度 収 益	2,396,220	0.0	1,359,344	0.0	176.3
その他特別利益	2,456,854	0.0	8,365,304	0.0	29.4
収 益 合 計	26,391,011,401	100.0	27,011,421,441	100.0	97.7
医 業 損 失	1,174,537,184		1,635,878,078		
経 常 損 失	396,140,313		—		
純 損 失	395,634,461		—		

なっている。

比 較 損 益 計 算 書

科 目	借		方		前 年 度 対 比 (%)
	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		
	金 額 (円)	構成比 (%)	金 額 (円)	構成比 (%)	
医 業 費 用	22,989,676,734	94.3	22,476,366,187	93.7	102.3
給 与 費	10,640,761,332	43.7	10,343,932,650	43.1	102.9
材 料 費	7,352,646,221	30.2	7,121,463,713	29.7	103.2
経 費	3,104,935,612	12.7	3,169,984,210	13.2	97.9
減 価 償 却 費	1,789,425,070	7.3	1,742,974,183	7.3	102.7
資 産 減 耗 費	36,198,703	0.1	40,743,429	0.2	88.8
研 究 研 修 費	65,709,796	0.3	57,268,002	0.2	114.7
医 業 外 費 用	1,378,750,311	5.7	1,506,160,691	6.3	91.5
支 払 利 息	182,010,740	0.7	191,261,384	0.8	95.2
患 者 外 給 食 費	632,055	0.0	583,770	0.0	108.3
保 育 費	5,536,199	0.0	99,970,890	0.4	5.5
長期前払消費税償却	154,324,080	0.6	167,792,457	0.7	92.0
雑 損 失	1,036,247,237	4.3	1,046,552,190	4.4	99.0
特 別 損 失	1,521,417	0.0	3,671,433	0.0	41.4
過 年 度 損 失	1,521,417	0.0	1,103,643	0.0	137.9
その他特別損失	—	—	2,567,790	0.0	—
費 用 合 計	24,369,948,462	100.0	23,986,198,311	100.0	101.6
医 業 利 益	—		—		
経 常 利 益	—		397,016,377		
純 利 益	—		401,351,501		

(市 民 病 院)

貸 方					
科 目	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前 年 度 対 比 (%)
	金 額 (円)	構成比 (%)	金 額 (円)	構成比 (%)	
医 業 収 益	22,151,415,247	92.1	21,197,920,667	86.9	104.5
入 院 収 益	14,474,220,610	60.2	13,670,813,369	56.1	105.9
外 来 収 益	7,372,200,373	30.7	7,231,733,772	29.7	101.9
その他医業収益	304,994,264	1.3	295,373,526	1.2	103.3
医 業 外 収 益	1,890,147,961	7.9	3,181,622,588	13.0	59.4
受 取 利 息	164,704	0.0	88,287	0.0	186.6
補 助 金	300,102,816	1.2	1,573,985,223	6.5	19.1
負担金・交付金	1,125,761,315	4.7	1,142,653,021	4.7	98.5
患者外給食収益	1,055,925	0.0	970,024	0.0	108.9
保 育 収 益	7,590,632	0.0	5,894,025	0.0	128.8
長期前受金戻入	351,173,154	1.5	317,743,256	1.3	110.5
雑 収 益	60,315	0.0	17,929	0.0	336.4
その他医業外収益	104,239,100	0.4	140,270,823	0.6	74.3
特 別 利 益	2,461,146	0.0	8,006,557	0.0	30.7
過 年 度 収 益	4,292	0.0	120,082	0.0	3.6
その他特別利益	2,456,854	0.0	7,886,475	0.0	31.2
収 益 合 計	24,044,024,354	100.0	24,387,549,812	100.0	98.6
医 業 損 失	838,261,487		1,278,445,520		
経 常 損 失	326,863,837		—		
純 損 失	325,924,108		—		

比 較 損 益 計 算 書

科 目	借		方		前 年 度 対 比 (%)
	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		
	金 額 (円)	構成比 (%)	金 額 (円)	構成比 (%)	
医 業 費 用	2,333,900,733	96.6	2,351,160,722	96.3	99.3
給 与 費	1,522,317,213	63.0	1,511,859,718	61.9	100.7
材 料 費	256,999,395	10.6	292,707,924	12.0	87.8
経 費	430,156,023	17.8	421,010,499	17.3	102.2
減 価 償 却 費	115,993,416	4.8	116,380,707	4.8	99.7
資 産 減 耗 費	3,563,416	0.1	3,715,450	0.2	95.9
研 究 研 修 費	4,871,270	0.2	5,486,424	0.2	88.8
医 業 外 費 用	80,205,472	3.3	85,418,077	3.5	93.9
支 払 利 息	7,976,610	0.3	9,027,897	0.4	88.4
長期前払消費税償却	5,585,149	0.2	7,150,437	0.3	78.1
雑 損 失	66,643,713	2.8	69,239,743	2.8	96.3
特 別 損 失	2,825,805	0.1	3,923,706	0.2	72.0
過 年 度 損 失	2,825,805	0.1	3,554,346	0.1	79.5
その他特別損失	—	—	369,360	0.0	—
費 用 合 計	2,416,932,010	100.0	2,440,502,505	100.0	99.0
医 業 利 益	—		—		
経 常 利 益	—		185,668,296		
純 利 益	—		183,462,681		

(木 曾 川 市 民 病 院)

貸 方					
科 目	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前 年 度 対 比 (%)
	金 額 (円)	構成比 (%)	金 額 (円)	構成比 (%)	
医 業 収 益	1,997,625,036	85.1	1,993,728,164	76.0	100.2
入 院 収 益	1,431,997,921	61.0	1,398,130,420	53.3	102.4
外 来 収 益	528,628,273	22.5	548,389,265	20.9	96.4
その他医業収益	36,998,842	1.6	47,208,479	1.8	78.4
医 業 外 収 益	347,204,693	14.8	628,518,931	24.0	55.2
受 取 利 息	61,752	0.0	41,146	0.0	150.1
補 助 金	90,078,000	3.8	368,304,000	14.0	24.5
負担金・交付金	219,763,404	9.4	224,763,567	8.6	97.8
長期前受金戻入	27,059,679	1.2	27,472,650	1.0	98.5
雑 収 益	281	0.0	13,403	0.0	2.1
その他医業外収益	10,241,577	0.4	7,924,165	0.3	129.2
特 別 利 益	2,391,928	0.1	1,718,091	0.1	139.2
過 年 度 収 益	2,391,928	0.1	1,239,262	0.0	193.0
その他特別利益	—	—	478,829	0.0	—
収 益 合 計	2,347,221,657	100.0	2,623,965,186	100.0	89.5
医 業 損 失	336,275,697		357,432,558		
経 常 損 失	69,276,476		—		
純 損 失	69,710,353		—		

収 益 的 支 出 科 目 別 及 び 経 費 別

年度別 経 費 科 目	令 和 5 年 度					
	人 件 費(円)	物 件 費(円)	そ の 他(円)	留 保 資 金(円)	合 計 (円)	構 成 比 (%)
医 業 費 用	12,163,270,945	11,147,489,892	69,371,035	1,943,210,985	25,323,342,857	94.5
給 与 費	12,163,078,545	—	—	—	12,163,078,545	45.4
材 料 費	—	7,609,645,616	—	—	7,609,645,616	28.4
経 費*	192,400	3,465,293,590	69,371,035	—	3,534,857,025	13.2
減 価 償 却 費	—	—	—	1,905,418,486	1,905,418,486	7.1
資 産 減 耗 費	—	1,969,620	—	37,792,499	39,762,119	0.1
研 究 研 修 費	—	70,581,066	—	—	70,581,066	0.3
医 業 外 費 用	—	7,007,903	1,292,038,651	159,909,229	1,458,955,783	5.4
支 払 利 息	—	—	189,987,350	—	189,987,350	0.7
患 者 外 給 食 費	—	632,055	—	—	632,055	0.0
保 育 費	—	5,526,429	9,770	—	5,536,199	0.0
長 期 前 払 消 費 税 償 却	—	—	—	159,909,229	159,909,229	0.6
雑 損 失	—	849,419	1,102,041,531	—	1,102,890,950	4.1
特 別 損 失	—	—	4,347,222	—	4,347,222	0.0
過 年 度 損 失	—	—	4,347,222	—	4,347,222	0.0
そ の 他 特 別 損 失	—	—	—	—	—	—
合 計	12,163,270,945	11,154,497,795	1,365,756,908	2,103,120,214	26,786,645,862	100.0
構 成 比 (%)	45.4	41.6	5.1	7.9	100.0	

(注) 1 経 費 内 訳 人件費……給与費(給料、手当、法定福利費、退職給付費、賞与引当金繰入額、法定福利費引
 物件費……人件費、その他の経費及び留保資金以外の費用
 その他……保険料、諸会費、負担金補助及び交付金、支払利息、雑損失(消費税関係雑損失
 留保資金…減価償却費、資産減耗費(たな卸資産減耗費及び撤去に要する費用を除く)、長期

2 令和4年度の市民病院の保育費には、院内保育所運営委託料が含まれている。

3 *印の科目は市民病院と木曽川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去され、純計となっている。

両 年 度 比 較 表（ 総 合 ）

令 和 4 年 度						前年度 対 比 (%)
人 件 費(円)	物 件 費(円)	そ の 他(円)	留保資金(円)	合 計 (円)	構成比 (%)	
11,855,992,168	11,005,587,057	64,049,068	1,901,805,059	24,827,433,352	93.9	102.0
11,855,792,368	—	—	—	11,855,792,368	44.9	102.6
—	7,414,171,637	—	—	7,414,171,637	28.1	102.6
199,800	3,526,652,284	64,049,068	—	3,590,901,152	13.6	98.4
—	—	—	1,859,354,890	1,859,354,890	7.0	102.5
—	2,008,710	—	42,450,169	44,458,879	0.2	89.4
—	62,754,426	—	—	62,754,426	0.2	112.5
—	100,940,087	1,315,695,787	174,942,894	1,591,578,768	6.0	91.7
—	—	200,289,281	—	200,289,281	0.8	94.9
—	583,770	—	—	583,770	0.0	108.3
—	99,961,120	9,770	—	99,970,890	0.4	5.5
—	—	—	174,942,894	174,942,894	0.7	91.4
—	395,197	1,115,396,736	—	1,115,791,933	4.2	98.8
—	—	4,657,989	2,937,150	7,595,139	0.0	57.2
—	—	4,657,989	—	4,657,989	0.0	93.3
—	—	—	2,937,150	2,937,150	0.0	—
11,855,992,168	11,106,527,144	1,384,402,844	2,079,685,103	26,426,607,259	100.0	101.4
44.9	42.0	5.2	7.9	100.0		

当金繰入額)、報酬

並びに医療事故に対する和解金及び解決金)、過年度損失、貸倒引当金繰入額
前払消費税償却、固定資産売却損、その他特別損失

収益的支出科目別及び経費別

年度別 経費 科目	令和5年度					
	人件費(円)	物件費(円)	その他(円)	留保資金(円)	合計(円)	構成比(%)
医業費用	10,640,953,732	10,464,277,380	60,692,714	1,823,752,908	22,989,676,734	94.3
給与費	10,640,761,332	—	—	—	10,640,761,332	43.7
材料費	—	7,352,646,221	—	—	7,352,646,221	30.2
経費	192,400	3,044,050,498	60,692,714	—	3,104,935,612	12.7
減価償却費	—	—	—	1,789,425,070	1,789,425,070	7.3
資産減耗費	—	1,870,865	—	34,327,838	36,198,703	0.1
研究研修費	—	65,709,796	—	—	65,709,796	0.3
医業外費用	—	7,007,903	1,217,418,328	154,324,080	1,378,750,311	5.7
支払利息	—	—	182,010,740	—	182,010,740	0.7
患者外給食費	—	632,055	—	—	632,055	0.0
保育費	—	5,526,429	9,770	—	5,536,199	0.0
長期前払消費税償却	—	—	—	154,324,080	154,324,080	0.6
雑損失	—	849,419	1,035,397,818	—	1,036,247,237	4.3
特別損失	—	—	1,521,417	—	1,521,417	0.0
過年度損失	—	—	1,521,417	—	1,521,417	0.0
その他特別損失	—	—	—	—	—	—
合計	10,640,953,732	10,471,285,283	1,279,632,459	1,978,076,988	24,369,948,462	100.0
構成比(%)	43.7	43.0	5.3	8.1	100.0	

(注) 1 経費内訳 人件費……給与費(給料、手当、法定福利費、退職給付費、賞与引当金繰入額、法定福利費引
物件費……人件費、その他の経費及び留保資金以外の費用
その他……保険料、諸会費、負担金補助及び交付金、支払利息、雑損失(消費税関係雑損失
留保資金…減価償却費、資産減耗費(たな卸資産減耗費及び撤去に要する費用を除く)、長期
2 令和4年度の保育費には、院内保育所運営委託料が含まれている。

両年度比較表（市民病院）

令和4年度						前年度 対 比 (%)
人 件 費(円)	物 件 費(円)	そ の 他 (円)	留保資金(円)	合 計 (円)	構成比 (%)	
10,344,132,450	10,295,005,303	55,050,998	1,782,177,436	22,476,366,187	93.7	102.3
10,343,932,650	—	—	—	10,343,932,650	43.1	102.9
—	7,121,463,713	—	—	7,121,463,713	29.7	103.2
199,800	3,114,733,412	55,050,998	—	3,169,984,210	13.2	97.9
—	—	—	1,742,974,183	1,742,974,183	7.3	102.7
—	1,540,176	—	39,203,253	40,743,429	0.2	88.8
—	57,268,002	—	—	57,268,002	0.2	114.7
—	100,940,087	1,237,428,147	167,792,457	1,506,160,691	6.3	91.5
—	—	191,261,384	—	191,261,384	0.8	95.2
—	583,770	—	—	583,770	0.0	108.3
—	99,961,120	9,770	—	99,970,890	0.4	5.5
—	—	—	167,792,457	167,792,457	0.7	92.0
—	395,197	1,046,156,993	—	1,046,552,190	4.4	99.0
—	—	1,103,643	2,567,790	3,671,433	0.0	41.4
—	—	1,103,643	—	1,103,643	0.0	137.9
—	—	—	2,567,790	2,567,790	0.0	—
10,344,132,450	10,395,945,390	1,293,582,788	1,952,537,683	23,986,198,311	100.0	101.6
43.1	43.3	5.4	8.1	100.0		

当金繰入額)、報酬

並びに医療事故に対する和解金及び解決金)、過年度損失、貸倒引当金繰入額
前払消費税償却、固定資産売却損、その他特別損失

収益的支出科目別及び経費別

年度別 経費 科目	令和5年度					
	人件費(円)	物件費(円)	その他(円)	留保資金(円)	合計(円)	構成比(%)
医業費用	1,522,317,213	683,447,122	8,678,321	119,458,077	2,333,900,733	96.6
給与費	1,522,317,213	—	—	—	1,522,317,213	63.0
材料費	—	256,999,395	—	—	256,999,395	10.6
経費	—	421,477,702	8,678,321	—	430,156,023	17.8
減価償却費	—	—	—	115,993,416	115,993,416	4.8
資産減耗費	—	98,755	—	3,464,661	3,563,416	0.1
研究研修費	—	4,871,270	—	—	4,871,270	0.2
医業外費用	—	—	74,620,323	5,585,149	80,205,472	3.3
支払利息	—	—	7,976,610	—	7,976,610	0.3
長期前払消費税償却	—	—	—	5,585,149	5,585,149	0.2
雑損失	—	—	66,643,713	—	66,643,713	2.8
特別損失	—	—	2,825,805	—	2,825,805	0.1
過年度損失	—	—	2,825,805	—	2,825,805	0.1
その他特別損失	—	—	—	—	—	—
合計	1,522,317,213	683,447,122	86,124,449	125,043,226	2,416,932,010	100.0
構成比(%)	63.0	28.3	3.6	5.2	100.0	

(注) 経費内訳 人件費……給与費(給料、手当、法定福利費、退職給付費、賞与引当金繰入額、法定福利費引
物件費……人件費、その他の経費及び留保資金以外の費用
その他……保険料、諸会費、負担金補助及び交付金、支払利息、雑損失(消費税関係雑損失)、
留保資金…減価償却費、資産減耗費(たな卸資産減耗費及び撤去に要する費用を除く)、長期

両年度比較表（木曽川市民病院）

令和4年度						前年度 対 比 (%)
人 件 費(円)	物 件 費(円)	そ の 他(円)	留保資金(円)	合 計 (円)	構成比 (%)	
1,511,859,718	710,675,311	8,998,070	119,627,623	2,351,160,722	96.3	99.3
1,511,859,718	—	—	—	1,511,859,718	61.9	100.7
—	292,707,924	—	—	292,707,924	12.0	87.8
—	412,012,429	8,998,070	—	421,010,499	17.3	102.2
—	—	—	116,380,707	116,380,707	4.8	99.7
—	468,534	—	3,246,916	3,715,450	0.2	95.9
—	5,486,424	—	—	5,486,424	0.2	88.8
—	—	78,267,640	7,150,437	85,418,077	3.5	93.9
—	—	9,027,897	—	9,027,897	0.4	88.4
—	—	—	7,150,437	7,150,437	0.3	78.1
—	—	69,239,743	—	69,239,743	2.8	96.3
—	—	3,554,346	369,360	3,923,706	0.2	72.0
—	—	3,554,346	—	3,554,346	0.1	79.5
—	—	—	369,360	369,360	0.0	—
1,511,859,718	710,675,311	90,820,056	127,147,420	2,440,502,505	100.0	99.0
61.9	29.1	3.7	5.2	100.0		

当金繰入額)

過年度損失、貸倒引当金繰入額

前払消費税償却、固定資産売却損、その他特別損失

比 較 貸 借 対 照 表

借 方					
科 目	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前 年 度 対 比(%)
	金 額 (円)	構成比(%)	金 額 (円)	構成比(%)	
固 定 資 産	19,402,815,850	61.9	20,747,689,664	63.6	93.5
土 地	1,295,606,294	4.1	1,295,606,294	4.0	100.0
建 物	10,622,866,089	33.9	11,019,985,301	33.8	96.4
建 物 付 属 設 備	3,785,217,732	12.1	4,265,240,219	13.1	88.7
構 築 物	242,137,260	0.8	264,955,855	0.8	91.4
器 械 及 び 備 品	2,101,834,492	6.7	2,163,392,886	6.6	97.2
車 両 運 搬 具	22,047,386	0.1	21,525,155	0.1	102.4
リ ー ス 資 産	1,045,629,808	3.3	1,340,042,544	4.1	78.0
その他有形固定資産	30,043,874	0.1	30,043,874	0.1	100.0
建 設 仮 勘 定	—	—	0	0.0	—
電 話 加 入 権	2,219,027	0.0	2,219,027	0.0	100.0
出 資 金	620,000	0.0	620,000	0.0	100.0
敷 金	11,186,000	0.0	11,186,000	0.0	100.0
長期前払消費税	240,406,155	0.8	332,872,509	1.0	72.2
長 期 未 収 金	6,003,467	0.0	—	—	—
貸 倒 引 当 金	△ 3,001,734	0.0	—	—	—
流 動 資 産	11,938,778,541	38.1	11,853,873,005	36.4	100.7
現 金 預 金	7,400,049,205	23.6	6,794,435,583	20.8	108.9
未 収 金 *	4,329,900,260	13.8	4,908,779,565	15.1	88.2
貸 倒 引 当 金	△ 17,922,494	△ 0.1	△ 19,222,496	△ 0.1	93.2
貯 蔵 品	221,146,841	0.7	169,266,429	0.5	130.7
前 払 費 用	5,604,729	0.0	579,284	0.0	967.5
前 払 金	—	—	34,640	0.0	—
資 産 合 計	31,341,594,391	100.0	32,601,562,669	100.0	96.1

(注) *印の科目は市民病院と木曽川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去され、純計と

(総 合)

貸 方					
科 目	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前 年 度 対 比 (%)
	金 額 (円)	構成比 (%)	金 額 (円)	構成比 (%)	
固 定 負 債	16,446,534,048	52.5	17,119,641,251	52.5	96.1
企 業 債	10,521,877,901	33.6	11,204,226,150	34.4	93.9
リ ー ス 債 務	570,350,254	1.8	774,947,388	2.4	73.6
退職給付引当金	5,354,305,893	17.1	5,140,467,713	15.8	104.2
流 動 負 債	3,602,557,746	11.5	3,760,895,159	11.5	95.8
企 業 債	682,348,249	2.2	587,361,242	1.8	116.2
リ ー ス 債 務	354,972,958	1.1	416,159,811	1.3	85.3
未 払 金 *	1,677,843,811	5.4	1,943,176,142	6.0	86.3
預 り 金	92,271,929	0.3	95,190,726	0.3	96.9
賞 与 引 当 金	673,991,346	2.2	608,606,753	1.9	110.7
法定福利費引当金	121,129,453	0.4	110,400,485	0.3	109.7
繰 延 収 益	793,473,625	2.5	826,362,826	2.5	96.0
長 期 前 受 金	3,957,335,857	12.6	3,629,885,371	11.1	109.0
収益化累計額	△ 3,163,862,232	△ 10.1	△ 2,803,522,545	△ 8.6	112.9
資 本 金	19,188,348,623	61.2	19,188,348,623	58.9	100.0
自 己 資 本 金	19,188,348,623	61.2	19,188,348,623	58.9	100.0
剰 余 金	△ 8,689,319,651	△ 27.7	△ 8,293,685,190	△ 25.4	104.8
資 本 剰 余 金	39,083,874	0.1	39,083,874	0.1	100.0
利 益 剰 余 金	△ 8,728,403,525	△ 27.8	△ 8,332,769,064	△ 25.6	104.7
(当年度純利益・△純損失)	(△ 395,634,461)		(584,814,182)		
負債・資本合計	31,341,594,391	100.0	32,601,562,669	100.0	96.1

なっている。

比 較 貸 借 対 照 表

借 方					
科 目	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前 年 度 対 比(%)
	金 額 (円)	構成比(%)	金 額 (円)	構成比(%)	
固 定 資 産	18,385,614,989	65.5	19,631,358,743	67.2	93.7
土 地	1,282,261,344	4.6	1,282,261,344	4.4	100.0
建 物	9,978,020,414	35.5	10,333,402,581	35.4	96.6
建 物 付 属 設 備	3,649,006,225	13.0	4,113,320,624	14.1	88.7
構 築 物	226,071,260	0.8	247,288,040	0.8	91.4
器 械 及 び 備 品	1,945,488,040	6.9	1,981,828,334	6.8	98.2
車 両 運 搬 具	18,005,470	0.1	16,585,966	0.1	108.6
リ ー ス 資 産	1,013,208,485	3.6	1,296,687,895	4.4	78.1
その他有形固定資産	30,043,874	0.1	30,043,874	0.1	100.0
建 設 仮 勘 定	—	—	0	0.0	—
電 話 加 入 権	1,906,200	0.0	1,906,200	0.0	100.0
出 資 金	620,000	0.0	620,000	0.0	100.0
敷 金	11,186,000	0.0	11,186,000	0.0	100.0
長期前払消費税	227,060,180	0.8	316,227,885	1.1	71.8
長 期 未 収 金	5,474,994	0.0	—	—	—
貸 倒 引 当 金	△ 2,737,497	0.0	—	—	—
流 動 資 産	9,698,324,887	34.5	9,566,859,841	32.8	101.4
現 金 預 金	5,486,638,956	19.5	4,914,775,676	16.8	111.6
未 収 金	4,008,482,573	14.3	4,506,673,935	15.4	88.9
貸 倒 引 当 金	△ 17,098,279	△ 0.1	△ 18,348,797	△ 0.1	93.2
貯 蔵 品	214,696,908	0.8	163,180,733	0.6	131.6
前 払 費 用	5,604,729	0.0	578,294	0.0	969.2
資 産 合 計	28,083,939,876	100.0	29,198,218,584	100.0	96.2

(市 民 病 院)

貸 方					
科 目	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前 年 度 対 比(%)
	金 額 (円)	構成比(%)	金 額 (円)	構成比(%)	
固 定 負 債	15,294,910,617	54.5	15,962,159,554	54.7	95.8
企 業 債	10,200,582,197	36.3	10,822,797,024	37.1	94.3
リ ー ス 債 務	567,401,381	2.0	757,816,576	2.6	74.9
退職給付引当金	4,526,927,039	16.1	4,381,545,954	15.0	103.3
流 動 負 債	3,291,228,350	11.7	3,368,481,235	11.5	97.7
企 業 債	622,214,827	2.2	528,273,243	1.8	117.8
リ ー ス 債 務	340,791,019	1.2	400,047,711	1.4	85.2
未 払 金	1,559,672,268	5.6	1,731,401,642	5.9	90.1
預 り 金	82,429,561	0.3	83,340,870	0.3	98.9
賞 与 引 当 金	581,588,478	2.1	529,628,278	1.8	109.8
法定福利費引当金	104,532,197	0.4	95,789,491	0.3	109.1
繰 延 収 益	583,789,478	2.1	627,642,256	2.1	93.0
長期前受金	3,502,112,974	12.5	3,212,685,744	11.0	109.0
収益化累計額	△ 2,918,323,496	△ 10.4	△ 2,585,043,488	△ 8.9	112.9
資 本 金	15,401,729,823	54.8	15,401,729,823	52.7	100.0
自己資本金	15,401,729,823	54.8	15,401,729,823	52.7	100.0
剰 余 金	△ 6,487,718,392	△ 23.1	△ 6,161,794,284	△ 21.1	105.3
資本剰余金	30,043,874	0.1	30,043,874	0.1	100.0
利益剰余金	△ 6,517,762,266	△ 23.2	△ 6,191,838,158	△ 21.2	105.3
(当年度純利益・△純損失)	(△ 325,924,108)		(401,351,501)		
負債・資本合計	28,083,939,876	100.0	29,198,218,584	100.0	96.2

比 較 貸 借 対 照 表

借 方					
科 目	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前 年 度 対 比(%)
	金 額 (円)	構成比(%)	金 額 (円)	構成比(%)	
固 定 資 産	1,017,200,861	31.2	1,116,330,921	32.8	91.1
土 地	13,344,950	0.4	13,344,950	0.4	100.0
建 物	644,845,675	19.8	686,582,720	20.2	93.9
建物付属設備	136,211,507	4.2	151,919,595	4.5	89.7
構 築 物	16,066,000	0.5	17,667,815	0.5	90.9
器械及び備品	156,346,452	4.8	181,564,552	5.3	86.1
車 両 運 搬 具	4,041,916	0.1	4,939,189	0.1	81.8
リ ー ス 資 産	32,421,323	1.0	43,354,649	1.3	74.8
電 話 加 入 権	312,827	0.0	312,827	0.0	100.0
長期前払消費税	13,345,975	0.4	16,644,624	0.5	80.2
長 期 未 収 金	528,473	0.0	—	—	—
貸 倒 引 当 金	△ 264,237	0.0	—	—	—
流 動 資 産	2,242,990,129	68.8	2,289,861,275	67.2	98.0
現 金 預 金	1,913,410,249	58.7	1,879,659,907	55.2	101.8
未 収 金	323,954,162	9.9	404,953,741	11.9	80.0
貸 倒 引 当 金	△ 824,215	0.0	△ 873,699	0.0	94.3
貯 蔵 品	6,449,933	0.2	6,085,696	0.2	106.0
前 払 費 用	—	—	990	0.0	—
前 払 金	—	—	34,640	0.0	—
資 産 合 計	3,260,190,990	100.0	3,406,192,196	100.0	95.7

(木 曽 川 市 民 病 院)

貸 方					
科 目	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前 年 度 対 比(%)
	金 額 (円)	構成比(%)	金 額 (円)	構成比(%)	
固 定 負 債	1,151,623,431	35.3	1,157,481,697	34.0	99.5
企 業 債	321,295,704	9.9	381,429,126	11.2	84.2
リ ー ス 債 務	2,948,873	0.1	17,130,812	0.5	17.2
退職給付引当金	827,378,854	25.4	758,921,759	22.3	109.0
流 動 負 債	313,865,871	9.6	395,262,035	11.6	79.4
企 業 債	60,133,422	1.8	59,087,999	1.7	101.8
リ ー ス 債 務	14,181,939	0.4	16,112,100	0.5	88.0
未 払 金	120,708,018	3.7	214,622,611	6.3	56.2
預 り 金	9,842,368	0.3	11,849,856	0.3	83.1
賞 与 引 当 金	92,402,868	2.8	78,978,475	2.3	117.0
法定福利費引当金	16,597,256	0.5	14,610,994	0.4	113.6
繰 延 収 益	209,684,147	6.4	198,720,570	5.8	105.5
長 期 前 受 金	455,222,883	14.0	417,199,627	12.2	109.1
収益化累計額	△ 245,538,736	△ 7.5	△ 218,479,057	△ 6.4	112.4
資 本 金	3,786,618,800	116.1	3,786,618,800	111.2	100.0
自 己 資 本 金	3,786,618,800	116.1	3,786,618,800	111.2	100.0
剰 余 金	△ 2,201,601,259	△ 67.5	△ 2,131,890,906	△ 62.6	103.3
資 本 剰 余 金	9,040,000	0.3	9,040,000	0.3	100.0
利 益 剰 余 金	△ 2,210,641,259	△ 67.8	△ 2,140,930,906	△ 62.9	103.3
(当年度純利益・△純損失)	(△ 69,710,353)		(183,462,681)		
負債・資本合計	3,260,190,990	100.0	3,406,192,196	100.0	95.7

比較財務分析表

区 分		令和5年度	令和4年度	増・△減
財務分析	稼働病床利用率 (%)	78.6	75.0	3.6
	自己資本構成比率 (%) *	36.0	36.0	0.0
	固定資産対長期資本比率 (%)	69.9	71.9	△ 2.0
	流動比率 (%) *	331.4	315.2	16.2
	総収益対総費用比率 (%) *	98.5	102.2	△ 3.7
	医業収益対医業費用比率 (%) *	95.4	93.4	2.0
	企業債元金償還金対減価償却額比率 (%)	38.5	36.3	2.2
	医業収益に対する比率			
	企業債元金償還金 (%) *	2.4	2.4	0.0
	企業債利息 (%) *	0.8	0.8	0.0
	企業債元利償還金 (%) *	3.2	3.2	0.0
	職員給与費 (%) *	50.4	51.1	△ 0.7

(注) *印の付された項目の算出に当たっては、市民病院と木曽川市民病院との間で行われた内部取

（ 総 合 ）

算 式	説 明
$\frac{\text{年 延 入 院 患 者 数}}{\text{年 延 病 床 数}} \times 100$ （ 稼 働 病 床 数 ）	
$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負 債 ・ 資 本 合 計}} \times 100$	総資本と自己資本との関係を示すもので、自己資本構成比率が大きいほど経営の安全性は高いといえる。
$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$	固定資産の調達が資本と長期的な負債の範囲内で行われるべき立場から100%以下であるのが正常で、100%を超える場合は固定資産に対して過大投資が行われたものといえる。
$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$	1年以内に現金化できる資産と1年以内に支払わなければならない負債とを比較するものである。流動性を確保するためには200%以上あることが理想とされている。
$\frac{\text{病 院 事 業 収 益}}{\text{病 院 事 業 費 用}} \times 100$	
$\frac{\text{医 業 収 益}}{\text{医 業 費 用}} \times 100$	業務活動によってもたらされた医業収益とそれに要した医業費用を比較して業務活動成績を示すもので、これによって経営の良否を判断するものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$	企業債償還額とその主要償還財源である減価償却額を比較したものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 利 息}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 元 利 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{職 員 給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	

引が相殺消去された数値を用いた。

比較財務分析表

区 分		令和5年度	令和4年度	増・△減
財 務 分 析	稼働病床利用率 (%)	77.1	74.6	2.5
	稼働一般病床利用率 (%)	78.5	76.2	2.3
	稼働結核・感染症病床利用率 (%)	42.4	38.6	3.8
	自己資本構成比率 (%)	33.8	33.8	0.0
	固定資産対長期資本比率 (%)	74.2	76.0	△ 1.8
	流動比率 (%)	294.7	284.0	10.7
	総収益対総費用比率 (%)	98.7	101.7	△ 3.0
	医業収益対医業費用比率 (%)	96.4	94.3	2.1
	企業債元金償還金対減価償却額比率 (%)	36.7	34.5	2.2
	医業収益に対する比率			
	企業債元金償還金 (%)	2.4	2.3	0.1
	企業債利息 (%)	0.8	0.9	△ 0.1
	企業債元利償還金 (%)	3.2	3.2	0.0
	職員給与費 (%)	48.0	48.8	△ 0.8

(市 民 病 院)

算 式	説 明
$\frac{\text{年 延 入 院 患 者 数}}{\text{年 延 病 床 数}} \times 100$ (稼 働 病 床 数)	
$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負 債 ・ 資 本 合 計}} \times 100$	総資本と自己資本との関係を示すもので、自己資本構成比率が大きいほど経営の安全性は高いといえる。
$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$	固定資産の調達が資本と長期的な負債の範囲内で行われるべき立場から100%以下であるのが正常で、100%を超える場合は固定資産に対して過大投資が行われたものといえる。
$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$	1年以内に現金化できる資産と1年以内に支払わなければならない負債とを比較するものである。流動性を確保するためには200%以上あることが理想とされている。
$\frac{\text{病 院 事 業 収 益}}{\text{病 院 事 業 費 用}} \times 100$	
$\frac{\text{医 業 収 益}}{\text{医 業 費 用}} \times 100$	業務活動によってもたらされた医業収益とそれに要した医業費用を比較して業務活動成績を示すもので、これによって経営の良否を判断するものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$	企業債償還額とその主要償還財源である減価償却額を比較したものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 利 息}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 元 利 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{職 員 給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	

比較財務分析表

区 分		令和5年度	令和4年度	増・△減
財務分析	稼働病床利用率 (%)	85.7	76.7	9.0
	稼働一般病床利用率 (%)	80.8	68.0	12.8
	稼働療養病床利用率 (%)	94.7	91.5	3.2
	自己資本構成比率 (%)	55.0	54.4	0.6
	固定資産対長期資本比率 (%)	34.5	37.1	△ 2.6
	流動比率 (%)	714.6	579.3	135.3
	総収益対総費用比率 (%)	97.1	107.5	△ 10.4
	医業収益対医業費用比率 (%)	85.6	84.8	0.8
	企業債元金償還金対減価償却額比率 (%)	66.4	65.3	1.1
	医業収益に対する比率			
	企業債元金償還金 (%)	3.0	2.9	0.1
	企業債利息 (%)	0.4	0.4	0.0
	企業債元利償還金 (%)	3.4	3.4	0.0
	職員給与費 (%)	76.2	75.8	0.4

(木 曾 川 市 民 病 院)

算 式	説 明
$\frac{\text{年 延 入 院 患 者 数}}{\text{年 延 病 床 数}} \times 100$ (稼 働 病 床 数)	
$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負 債 ・ 資 本 合 計}} \times 100$	総資本と自己資本との関係を示すもので、自己資本構成比率が大きいほど経営の安全性は高いといえる。
$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$	固定資産の調達が資本と長期的な負債の範囲内で行われるべき立場から100%以下であるのが正常で、100%を超える場合は固定資産に対して過大投資が行われたものといえる。
$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$	1年以内に現金化できる資産と1年以内に支払わなければならない負債とを比較するものである。流動性を確保するためには200%以上あることが理想とされている。
$\frac{\text{病 院 事 業 収 益}}{\text{病 院 事 業 費 用}} \times 100$	
$\frac{\text{医 業 収 益}}{\text{医 業 費 用}} \times 100$	業務活動によってもたらされた医業収益とそれに要した医業費用を比較して業務活動成績を示すもので、これによって経営の良否を判断するものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$	企業債償還額とその主要償還財源である減価償却額を比較したものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 利 息}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 元 利 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{職 員 給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	